

後藤新平圖書

寄贈

臺灣總督府民政長官後藤新平君序

獨逸國大學教授公使館參事官ドクトル、ヘルフェリッヒ著

臺灣總督府警察官及司獄官練習所  
教官兼事務官森孝三譯

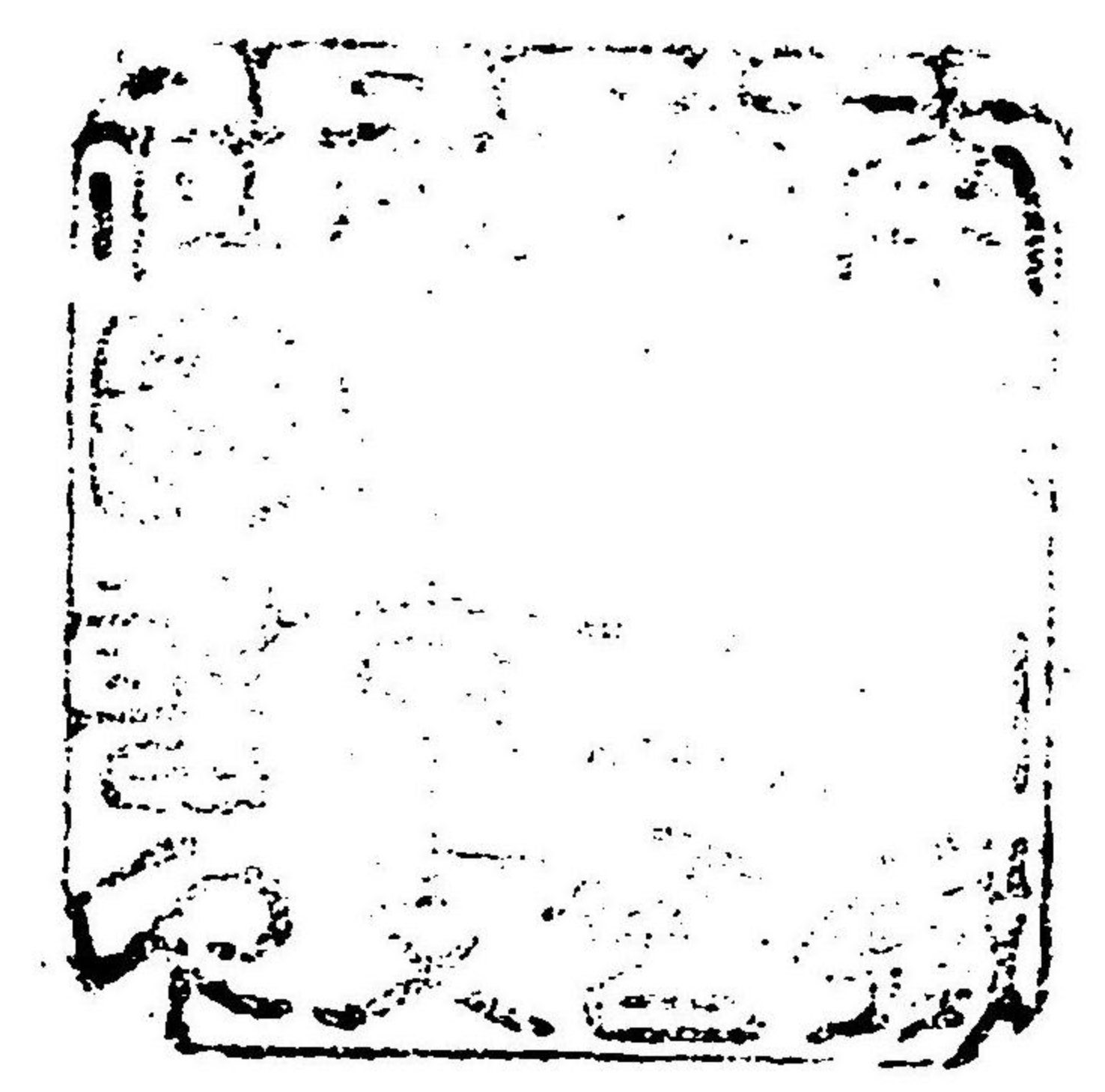
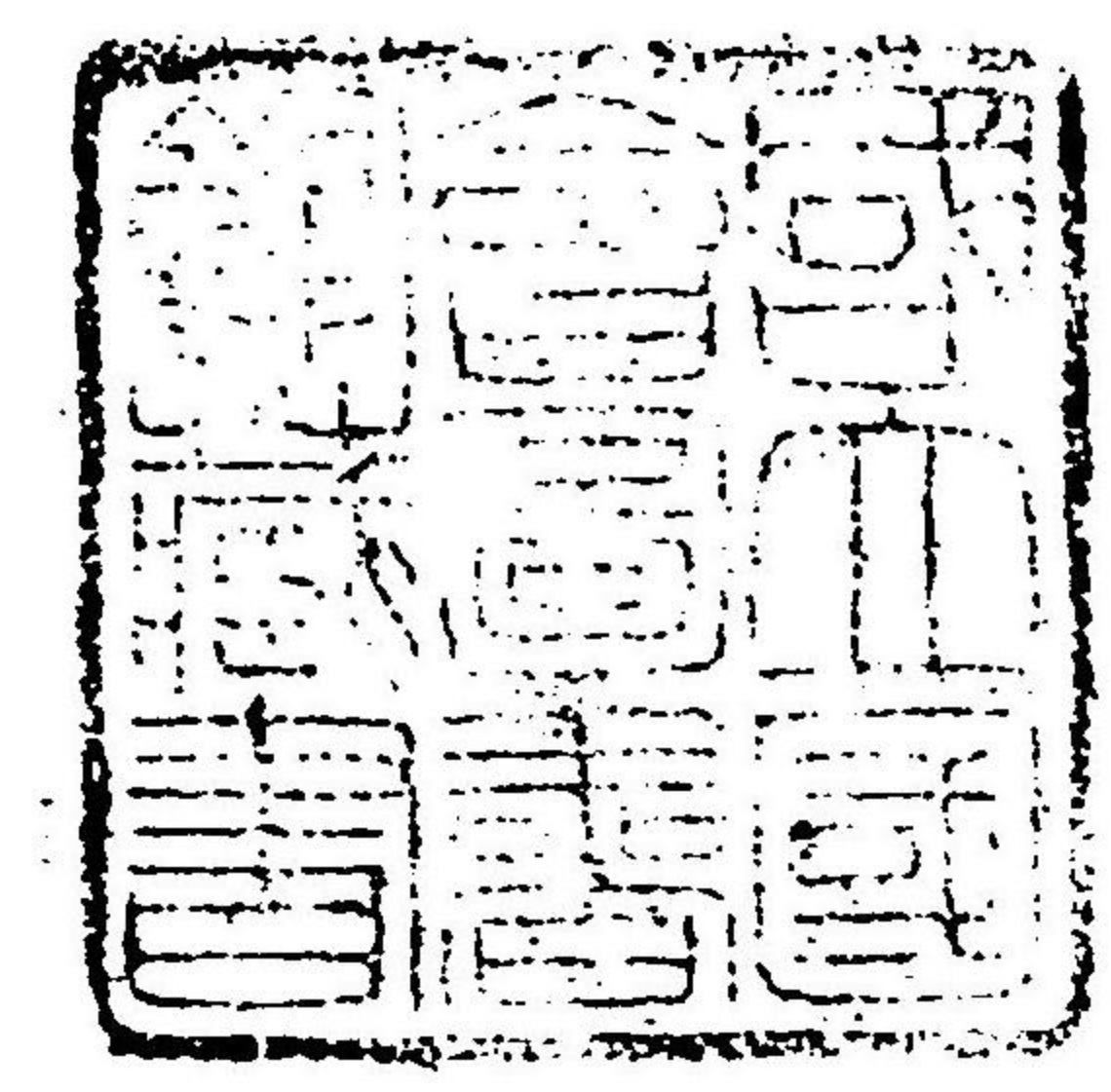
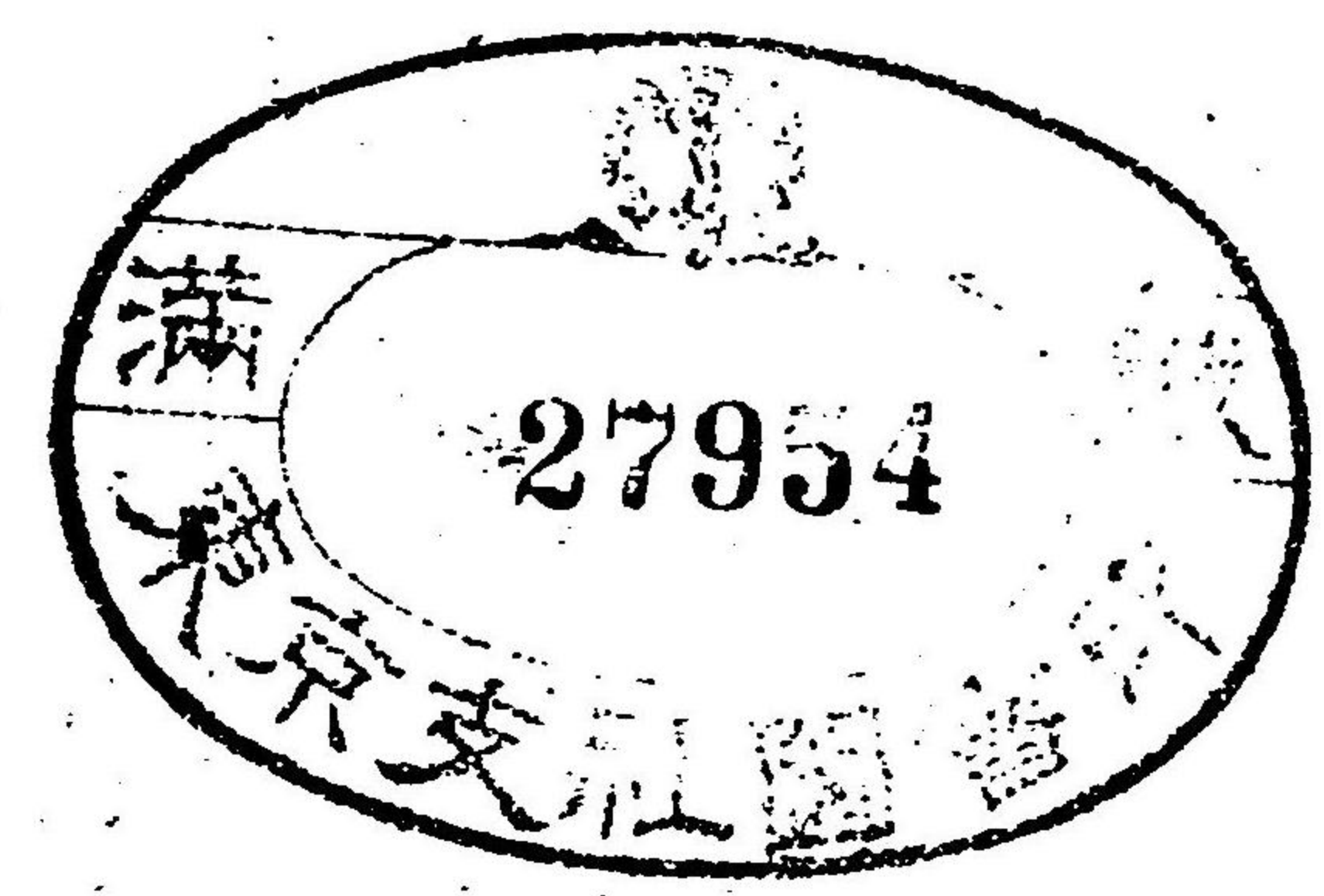
# 殖民行政組織改革論

東京 博文館藏版

11M11



317.8  
CH47A  
M



F15092

# 序

比斯麥克當路の頃獨逸海外殖民の氣運未だ旺んならず故以其  
 屬地統治に關する諸般の研究も亦尙苟且を免れさりしか二十  
 年來殖民事業連りに起色を呈し屬地統治の問題は政治實業學  
 術の諸方面より歴驗講究せられ所謂殖民行政は祖國循熟の制  
 度を襲襲せしむべきものに非ざるの理も亦識者の承認する所  
 となれり於是獨逸殖民事業は大段此に明められたりと雖凡そ  
 此等の實驗的講究は單り理路推裁の能くすべき所に非ざるを  
 以て獨逸政治家は適才の士を擧げて列國駐劄公使館に在官せ  
 しめ其れをして所在に就いて列國殖民行政事宜の探討に膺ら  
 しめたり此は固より稱して第一の善法となすへからすと雖而  
 も獨逸殖民事業の是に由りて放省警發せらるゝ所蓋し尠少に

(1)



序

止らす伯林大學教授公使館參事官ヘルフェリッヒ氏は現に本國政府外務省殖民局に在任し殖民行政問題の講究日に殷切に趨くに因りて近者殖民行政組織改革論の選あり氏の地位學識の致す所獨國朝野斯問題を研究するもの重きを此論文に措かさるなし把りて之を讀むに編褻に仍りて大著述と稱すへからすと雖考據精明立言切到獨逸文學の本色を具へ事理井々適く以て我臺灣時務の爲に癢を技くに足るのみならず抑亦世間臆見空論の徒をして一省を彼方論者の態度に發せしむるに堪へたるものあり曩に臺灣總督府は獨逸殖民問題に關し海軍省參事官兼大學教授ドクトル、キョーブネル氏殖民地に於ける司法組織「ドクトル、パウエル氏」獨逸保護領地土人に對する刑事裁判制度諸本を譯して當事の参考に資する所あり近年膠州灣の租借カロリン群島の買得以來獨逸殖民の氣勢は着々我と相迫邇す

(2)

序

此書翻譯固より悠々好事の餘に出つるに非ず覽者庶幾はくは西人の能事數に在りて幸に非ざることを會せん哉今茲に譯成り録して序文となす譯は臺灣總督府事務官森君の成す所なり

明治三十八年六月

臺灣總督府民政長官 後 藤 新 平

(3)



凡

例

凡例

一著者ハ現ニ伯林大學ニ於テ通商政策殖民政策ノ講座ヲ擔任  
シ前ニ通商政策論ノ著アリ今又千九百五年「ドイツエス、ユロ  
ニアール、プラット」ノ附録トシテ本書(zur Reform der kolonialen Ver-  
waltungsorganisation)ヲ發刊シタリ

一原文中「ライヒスアムト」トアルヲ省ト譯シ「スターツゼクレテ  
ール」トアルヲ大臣ト譯セリ其他皆之ニ類ス要スルニ官名ハ  
本邦相當官名ヲ用フ蓋シ了解ニ易カラシメンガ爲ナリ



# 目次

緒言

第一章 中央行政(Die Zentralverwaltung)

第二章 地方行政(Die Localverwaltung)

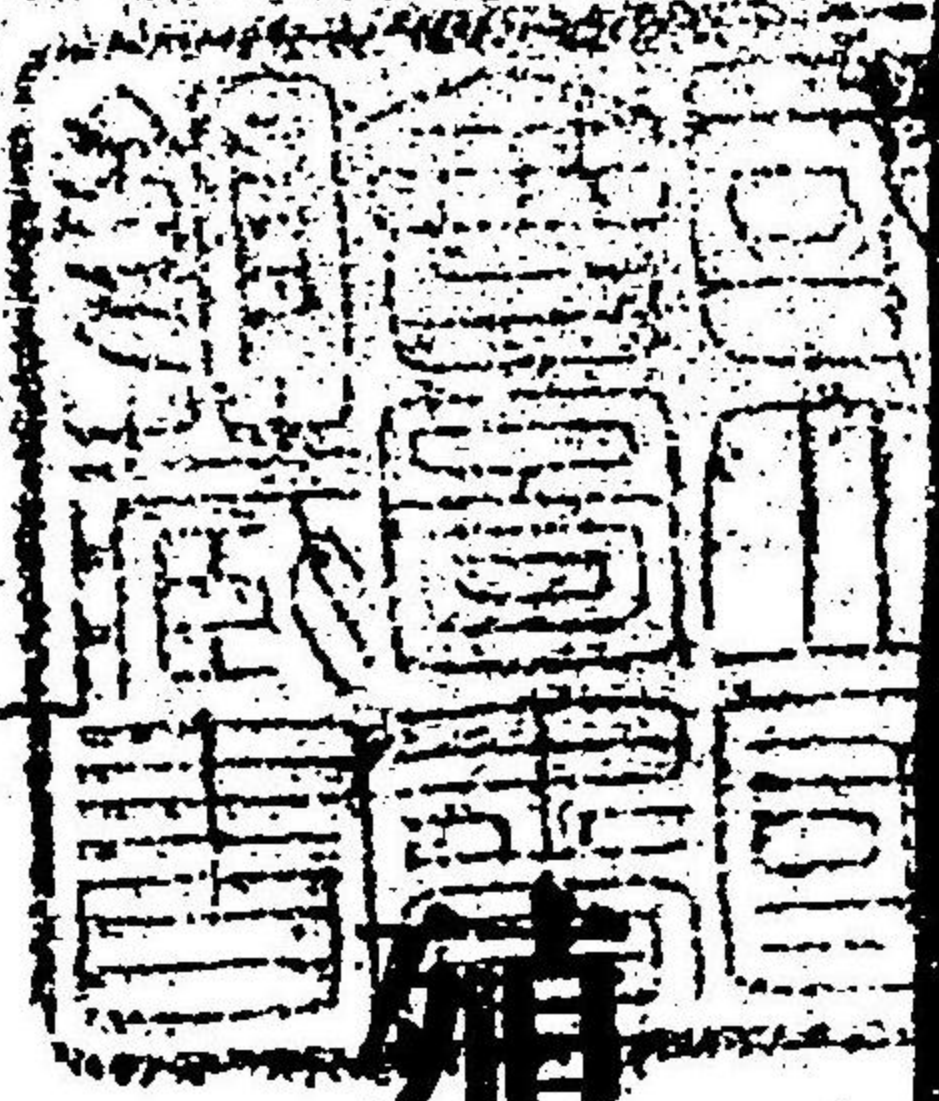
第三章 中央行政と地方行政との關係

(Das Verhältniss zwischen Zentralverwaltung und Localverwaltung)

第四章 軍事組織及其民政との關係

(Die militärische Organisation und ihr Verhältniss zur Zivilverwaltung)





# 殖民行政組織改革論

大學教授  
公使館參事官  
ドクトル  
ヘルフェリッヒ  
述

臺灣總督府  
警察官及司獄官  
練習所教官  
兼事務官  
森  
孝  
三  
譯

## 緒言

今ヲ距ルコト二十年前獨逸ガ初メテ其海外所領地ヲ提ゲテ殖  
民國ノ伍伴ニ列シタル時ニ當リ其殖民行政組織ニハ毫モ歴史  
上ノ所憑無カリシヲ以テ言ハバ無一物ヨリ之ヲ創造セザル可  
ラザリシナリ爾來獨逸ノ殖民地ハ其政治上ノ統治其行政ノ組  
織其移民及經濟的開發ノ案件ニ就キ比較的短期間内ニ幾多ノ  
變遷ヲ見從ヒテ殖民行政組織ニ關スル要求モ著ルシク増加シ

言

緒



タリ我殖民地ノ發達ハ時代ヲ經過スルコト短ク而モ超世紀的  
 歴史ニ由リテ起リ且超世紀的經驗ニ由リテ初メテ證明セラル  
 ベキ鞏固ナル遺傳ヲ闕如セルガ故ニ我殖民行政組織ガ殖民地  
 ノ實際ノ須要及間斷ナク實驗ニ由リテ發生スル訓戒ト一致ス  
 ルヤ否ヤ吾人ハ刮目シテ之ヲ注意查察セザルベカラズ而シテ  
 前年ノ事變(南西亞弗利加「ヘレロー」ノ亂ヲ云フ)ハ我殖民地ノ設  
 備ガ果シテ悉ク整頓セルヤ否ヤ及如何ナル點ニ改良ヲ施スノ  
 必要アルヤチ一層注意セザル可カラザルニ至ラシメタリ帝國  
 宰相ハ千九百四年十二月五日ノ帝國議會ニ於テ殖民行政組織  
 ノ問題ガ周密ナル審議中ナルコトヲ通告シ且二三ノ點ニ就イ  
 テハ既ニ其成案ヲ示サレタルヲ以テ殖民行政ノ改革法案ハ近  
 キ内ニ提出セラルベシ從ヒテ殖民政策ヲ主題トセシ予ノ講演  
 ニ胚胎シタル殖民行政組織ノ要點ニ關スル本論ノ如キハ殖民

地ノ發達ニ趣味ヲ有スル諸君ノ歡迎スル所タルベク且我殖民  
 行政組織ノ適切ナル建設ヲ助長スルノ一端トナルベキヲ信ズ  
 本論ノ目的ハ改革ノ成案ヲ示スヨリハ寧我殖民行政組織及其  
 改革ニ重大ノ關係ヲ有スル實際ノ狀況ヲ摘示スルニアリ  
 本論ニ立入ルニ先チテ左ノ注意ヲ請ハザルベカラズ  
 抑々殖民地ナルモノハ其性質上地理的人種的經濟的關係ニ於テ  
 全然母國ト異ナリタル地域ニシテ母國ノ憲法及行政組織ハ其  
 儘之ヲ應用スルコト能ハザルモノナリ然レドモ殖民地ハ政治  
 上及經濟上究極ノ目的ヲ自己ニ存スル獨立ノ國家的團體ニア  
 ラズ之ヲ要スルニ殖民地ハ母國ノ附屬物トシ母國ノ政治的文  
 學的經濟的政策ノ目的ヲ仰イデ其規矩準繩トナスベキモノナ  
 リ是ヲ以テ凡テノ殖民國ニ於テモ殖民行政ハ中央行政ト各殖  
 民地ノ地方行政トニ分レ中央行政ハ母國ノ或最高官廳ノ組織



中ニ編入セラレタリ是ニ於テカ殖民行政組織ノ問題ハ左ノ三  
題ニ區別セラレザルベカラス

第一 殖民行政ノ中央組織及其母國最高官廳ニ對スル關  
係

第二 殖民地ノ地方行政組織

第三 中央行政ト地方行政トノ關係

以上ノ問題ノ外殖民地兵力ノ編成問題アリ即殖民地軍隊ハ之  
ヲ殖民地行政ニ附屬スベキカ將母國ノ兵制中ニ編入スベキカ  
ノ問題はレナリ本論ノ目的ハ此四點ニ就キ現時ニ於ケル獨逸  
ノ殖民行政組織及其從來ノ沿革ヲ説明シ併セテ重要ナル點ニ  
就キ他ノ殖民國殊ニ英國及佛國ノ制度ヲ比較シ以テ改革ノ必  
要ヲ論究セントスルニ在リ

(4)

### 第一章 中央行政

獨逸保護領地憲法ノ原則トシテ皇帝ハ帝國ノ名義ヲ以テ保護  
領地ニ保護權ヲ行フガ故ニ(保護領地法第一條)帝國宰相ハ殖民  
地全般ノ行政ニ就キ職權及責任ヲ有スベシ帝國宰相ニ隸屬ス  
ル殖民行政ノ中央組織ニ關シテハ特別ノ法律制定セラレザル  
ガ故ニ皇帝ハ當然此組織ヲ定メ及變更スル權能ヲ有ス但此組  
織ニ必要ナル財政上ノ物資ガ帝國豫算上立法議會ニ由リテ承  
諾セラレ、ユトヲ要スルハ勿論ナリ

(5)

殖民事務ハ其當初ヨリ帝國宰相ノ責任ノ下ニ外務省就中政務  
局ニ於テ——千八百九十年四月一日以來殖民局ナル名稱ヲ有  
スル新設ノ第四局ニ於テ——處理セラレタリ千八百九十年六  
月三十日ノ帝國宰相ノ命令ニ據リ殖民局ハ外國トノ交渉及一



般政策ニ關スル事項ニ就イテハ外務大臣ニ隸屬シ本來ノ殖民事務全班殊ニ官制問題一切ニ就テハ帝國宰相ノ責任ノ下ニ獨立シテ行動シ殖民局長ハ帝國行政ノ最高長官タル帝國宰相ニ直接報告ヲ行ヒ且其發送スル文書ハ外務省殖民局ナル名義ノ下ニ自ラ署名スベキコトヲ規定セラレタリ

此帝國宰相ノ命令ニ由リテ定メラレタル殖民局ノ權限ノ範圍ニ就テハ官廳間ニ於テモ經濟上殖民地ニ利害關係ヲ有スル公衆間ニ在リテモ疑惑ヲ懷キタルモノ尠カラズ此疑惑ヲ氷解セシムガ爲ニ千八百九十四年十二月十二日ノ勅令發布セラレタリ此勅令ニハ保護領地ノ一切ノ行政官廳及官吏ヲ併セテハ殖民局ニ隸屬シ殖民局ハ之ニ關スル事務ヲ處理スルニ殖民局ナル名義ヲ以テ帝國宰相直接責任ノ下ニ於テスベキコトヲ規定シ且千八百九十年六月三十日ノ帝國宰相ノ命令ト同ク殖民局ガ

(6)

外國トノ交渉及一般政策ニ關スル限ハ外務大臣ニ隸屬スル規定ヲ設ケタリ

帝國宰相ハ帝國議會豫算委員會ノ希望ニ由リ千八百九十五年三月十六日ノ公文ヲ以テ該勅令ヲ帝國議會ニ報告シタリ該公文ハ勅令ノ理由トシテ左ノ辨明ヲナセリ

帝國宰相ハ無論事々物々殖民行政ヲ直接擔當スルコト能ハザルガ故ニ帝國宰相ハ一般責任ノ下ニ帝國宰相ニ對シテ責任ヲ有シ且保護領地全般ノ行政ヲ管掌スル中央局ニ於テ殖民行政ヲ指揮シ其行政ノ統一ヲ保タザルヲ得ズ是ヲ以テ漸次此中央局ヲ獨立セシムル方針ニ循ヒ先ツ外務省ノ殖民局ヲシテ中央行政ノ事務ヲ適切ニ處理スルコトヲ得セシムルハ機宜ニ適シタルモノト云フベキナリ中央局ノ職務ハ聯邦參議院、帝國議會及會計検査院ニ對シ帝國宰相ノ名義ヲ以テ

(7)



保護領地ノ行政ヲ代表スルニアリ然リ而テ中央局ニシテ此  
 任務ヲ完ウシ且殖民地ノ營利會社ニ對スル監督權ヲ行フベ  
 キ法律上ノ責任ヲ盡サントセバ其權限及職權ハ官廳ニ對シ  
 テモ利害關係人ニ對シテモ正確明瞭ナラザルベカラズ  
 該公文ハ更ニ辯シテ曰ク

勅令ハ二個ノ方面ニ向ヒテ其効力ヲ發表シタリ即一方ニ於  
 テハ保護領地ノ中央行政ニ關スル裁決ハ帝國宰相直接ニ之  
 ナ行ハズ保護領地ノ一切ノ報告ハ寧先ツ殖民局ニ到達シ殖  
 民局ハ事態重大ナルカ又ハ其他ノ必要アルガ爲帝國宰相ノ  
 親裁ヲ仰クベキ場合ニ意見ヲ添ヘテ帝國宰相ニ提出スルコ  
 ト、ナレリ  
 帝國宰相ハ此ノ適切ナル裁決ヲナサシムベキ目的ニ出テダ  
 ル規定ニ據リ中央行政ノ意見ヲ問フコトナクシテ地方官廳

直接ノ上申ニ應答スベキ責務ナシト云フノ點ニ於テ負擔ヲ  
 輕減セラレタルモノナリ是ヲ以テ殖民事務ノ行政ハ帝國宰  
 相ノ配下タル其他ノ部局ニ關スルト同一原則ニ服従スルニ  
 至リタリ

外務省殖民局長ハ重大ナル財政問題及豫算超過ノ問題ニ就  
 キ帝國大藏大臣ト協議シタル後又ハ大藏大臣ト共同シテ帝  
 國宰相ニ意見ヲ開陳スルコトヲ得ルモノトス  
 他ノ一方ニ於テハ該勅令ニ由リ保護領地ヲシテ統一的眼目  
 ニ從ヒテ指揮セラレ且帝國ノ大方針ト調和スベキ行政ヲ施  
 行スルコトヲ得セシメ就中財務行政ノ一層嚴重ナル監督ヲ  
 ナスコトヲ得セシメタリ保護領地ノ官廳ニ向ヒテハ今日既  
 ニ原則トシテ豫メ未認可ヲ請ハザルニ豫算超過ヲ來ダスコ  
 トアルベキ處置ニ着手スベカラザルコトヲ警告スルノ必要



アリト

由是觀之獨逸殖民地ノ中央行政ハ外務省ノ一局ニアリテ而モ此局ハ之ヲ外務省及他省ノ自餘諸局ニ比スレハ特種ノ位置ヲ有シ外務大臣ト關係ナク帝國宰相ノ直接責任ノ下ニ其事務ノ大部分ヲ處理スルコトヲ得ルモノナリ

阿弗利加及南洋ニ在ル凡テノ保護領地行政ハ殖民局ニ隸屬ス之ニ反シテ膠州灣ハ海軍省ニ隸屬セリ膠州灣行政ニ關スル千八百九十八年一月二十七日ノ勅令ニ曰ク條約上獨逸國ニ委任セラレタル膠州灣地域ノ行政ハ當分之ヲ帝國宰相(海軍省)ニ委任スト而テ該保護領地ノ須要ナルハ其極東ニ於テ獨逸艦隊ノ根據地タルニ在ルヲ以テ其行政ト海軍行政トヲ分離スルハ得策ニアラザルナリ

獨逸保護領地行政組織ノ重大ナル問題ノ一ハ阿弗利加及南洋

保護領地ニ對スル殖民地中央行政ヲ以テ殖民行政以外ニ主タル職務ヲ有スル他官廳ノ範圍ニ編入セル現行制度ガ果シテ機宜ニ適シタルモノナリヤ將亦今日ハ既ニ獨立ノ主務省ヲ置キテ殖民地ノ中央行政ニ專任セシムベキ時機ニハアラザルカノ問題即是レナリ

舊來ノ殖民國ニ於テ經過シタル殖民地中央行政ノ變遷ヲ調査セバ殆ント何レノ國ニ於テモ殖民地中央行政ノ爲メニ省若シクハ他ノ獨立中央官廳ノ設立ヲ必要ト認メタルコトヲ知ルベシ然レドモ是久シキ殖民的發達ヲ經過シタル後ノ事ニ屬シ曩時ニ在リテハ各國トモ殖民地中央行政事務ヲ以テ政府從前ノ執レカノ省ニ隸屬セシメタリシモノナリ

英國ニ於テハ殖民行政ハ久シキ間商業ニ關スル中央官廳ニ攝セラレタリ千六百七十二年乃至千六百七十七年及千六百九十



五年乃至千七百八十二年ニハ Council of Trade and Plantations ニ隸屬シ千七百四十八年以降該局ハ印度ニ關スル事務ヲモ掌理シタリ尤千七百六十八年乃至千七百八十二年ニハ該局ノ外 The American or Colonial Department ノ大臣アリ合衆國分立後殖民行政ハ一時内務省 (Home Department) ニ屬セリ内務省ハ當時愛蘭ノ行政ヲモ管掌シタリ千七百八十六年乃至千七百九十四年殖民事務ハ更ニ Committee of Trade and Plantations ニ委任セラレタリ千七百九十四年以來新設セラレタル殖民省ハ當時同ジク新設セラレタル陸軍省ト所謂人的聯合ニ由リテ合併セラレ此二省ガ一省ニ融合シテ Secretary of State for the War and Colonial Department トナリタルハ千八百一年ノコトナリキ英佛戰爭ノ終局後殖民行政ハ該省ニ於テ重要ノ位置ヲ占ムルニ至リ Colonial Office List ニ據レバ其長官ハ通常 Secretary of State for the Colonies ト稱セラレ

レタリ「クリミヤ」戰爭破裂後軍務ノ重要ナルニ及ビテ軍事行政ハ更ニ之ヲ新設ノ陸軍省ニ委任シ從來ノ陸軍及殖民省ハ今日ノ Colonial Office ニ變更セラレタリ  
然レドモ此 Colonial Office ハ大不列顛國ノ凡テノ海外所領地ヲ統轄スルモノニアラズ印度事務(亞丁及「ベリム」ソコトラ)ヲ合セテハ寧千八百五十八年以來成立シタル India Office ニ又幾多ノ保護領地ハ Foreign Office ニ隸屬シタリ(保護領地中中央亞弗利加保護領地ハ千九百四年四月一日ヲ以テ外務省ヨリ殖民省ニ轉管セラレタリ東部阿弗利加保護領地及「ウガンダー」モ近キ内同様ノ變更ヲ見ルベシ)又專海軍ノ必要ニ係ル或地點ハ海軍省ニ隸屬シタリ  
佛國ニ於ケル殖民地ノ中央行政ハ「リシェリユ」宰相ニ由リテ外務省ノ管轄ニ「コルベル」宰相ニ由リテ海軍省ニ隸屬セシメラレ



タリシガ千八百五十八年初メテ「アルゼリ」及ヒ殖民地ノ爲ニ  
 獨立ノ省ヲ設ケ皇帝ノ甥タル「ナポレオン」親王ヲ以テ其首長ト  
 ナシタリ然ルニ千八百六十年殖民地ハ再海軍省ニ屬スルコト  
 トナリ此制度ハ千八百八十九年マデ繼續シタリ但其中間ニ於  
 テ「ガンベツター」ガ殖民地中央行政ノ爲ニ商務省ニ於テ特別ノ  
 Unterstaatssekretariat (殖民政官ノ制度)ヲ設ケテ一時之ヲ中斷シタ  
 ルコトアリ海軍省ニ於ケル殖民事務擔當部ハ千八百八十五年  
 ニ及ビ他部ニ比シテ一層ノ獨立ヲ得ルニ至レリ然ルニ千八百  
 八十九年殖民地ノ中央行政ハ再商務省ノ殖民政官ニ隸屬セシ  
 メラレタリ但此次官ハ當時既ニ大臣ト同格ノ位置ヲ有シタリ  
 千八百九十四年ニ至リ獨立ノ殖民政官設置セラレ「アルゼリ」ハ  
 除ク外凡テノ殖民地行政ハ其管掌セル所トナリ「アルゼリ」ハ  
 千八百六十年以來内務省ニ隸屬シ佛國ノ縣トシテ行政セラレ

タリ  
 近世ノ殖民地ハ多クハ母國陸海軍ノ兵力又ハ外交政略ニ由リ  
 テ獲得セラレ擴張セラレタルモノニシテ其ノ究極ノ目的ハ母  
 國ニ政治上及經濟上ノ利益ヲ與フルニ在ルガ故ニ殆ンド何レ  
 ノ國ニ於テモ殖民的發達ノ初期ニ在リテハ殖民地行政ヲ母國  
 ノ孰レカノ省ニ委任シタルハ當然ノコト、云フベシ而シテ母  
 國ノ孰レノ省ガ殖民行政ヲ擔任シタルカハ當時ノ事情及殖民  
 政策ノ第一ノ歸趣如何ニ由リタルモノナリ若夫殖民地ノ建設  
 及運命ニ關シ陸上及海上ニ於テ久シク激烈ナル戰爭ヲナスガ  
 如キ時代ナラシメバ殖民地ノ事務ハ之ヲ陸軍省若ハ海軍省ニ  
 委任スルノ至當ナルモノアルヲ覺ユ此點ニ就テハ佛國革命戰  
 争時代ニ當リ英國ニ於テ殖民行政ヲ陸軍省ニ合併シタルガ如  
 キ先例ノ徵スベキモノアリ之ニ反シテ殖民地及勢力範圍ガ外



交的折衝ノ間ニ劃定セラレ殖民的舞臺ニ活劇ヲ演ゼル國家ノ  
 占領スル所トナルガ如キ時代ニ當リテハ殖民事務ハ外務省ニ  
 於テ之ヲ擔當スルコト當然ナリ假令バ英國ノ如キ其殖民政策  
 ガ常ニ明晰ナル頭腦ヲ以テ經濟上就中通商政策上ノ目的ヲ達  
 セントスル國ニ於テハ殖民地ノ中央行政ガ久シキ間商務省ト  
 合併シタルガ如キハ大ニ注目ノ價值アルモノナリ然リト雖殖  
 民地中央行政ノ事務ヲ以テ母國行政ノ一局部ニ絶對無制限ニ  
 併合スル制度ハ唯殖民行政上ニ於テ母國ニ直接關係アル政治  
 上及經濟上ノ事務ガ主タル題目ヲナシ殖民地其物ノ政治及行  
 政ニ關スル問題ガ尙從位ニ立テル時代ニ限リ之ヲ實行スルコ  
 トヲ得ベキナリ即殖民事業ガ未確乎タル地域的性質ヲ帶ブル  
 ニ至ラザル時代換言スレバ殖民事業ガ海軍及商業ノ或根據地  
 ニ止マリ未大面積ヲ行政區域ニ編入セザル時代又ハ殖民事業

ハ大地域ノ政治及行政ニ及ブモ殖民地本分ノ地方行政ガ主權  
 ナ委任セラレタル會社ニ放任セラレ母國ノ政府ハ唯或監督權  
 及外國交渉權ヲ留保シ且必要ニ應シ陸海軍ノ保護ヲ與フルニ  
 止ル時代又或ハ殖民事業ガ大ニ發達シ殖民地ガ國家的團體ヲ  
 組織シ自政治及行政ヲ經營スルニ至リタル時代ニハ殖民地本  
 分ノ地方行政問題ハ之ヲ母國ニ直接關係ヲ有スル國防外交政  
 畧及母國殖民地間經濟關係ノ問題ニ比スレバ母國ノ殖民地中  
 央行政ノ上ニ於テ第二次ノ問題タルベシ然レドモ母國ニシテ  
 一タビ廣大ナル殖民地ノ行政ヲ組織シ之ヲ實行スルノ必要ヲ  
 認メタル場合ニハ殖民地中央行政ハ國家行政ノ殆凡テノ方面  
 ニ涉ラザルヲ得ズ是ニ於テカ殖民地中央行政ハ既ニ之ヲ母國  
 ノ一省中ニ挿入スルコトヲ得ベカラザルニ至リ結局一省ノ管  
 轄ヲ脱シテ獨立ノ中央官廳ヲ組織セザルヲ得ザルベシ



曩時萬國公法上無所屬ノ海外地域ニ於テ事業ヲ經營セントスル獨逸人ニ帝國領事館及海軍ノ保護ヲ與ヘ或地點ニ獨逸ノ國旗ヲ掲揚シ外文談判ノ途ニ由リテ萬國公法上獨逸ノ爲ニ或海外地域ヲ占領シ尙獨逸ニ獲得シ若ハ獲得セントスル殖民地ノ行政ハ之ヲ皇帝ノ保護狀ヲ授與セラレタル商事會社「ノイギネヤ」會社、獨領東部亞弗利加會社ニ委任シタルガ如キ獨逸殖民政策ノ初期ニ當リ殖民事務ヲ外務省ニ委任シタルハ最機宜ニ適シタルモノト云フベシ當時ノ殖民地中央行政ハ外務省ニ於テ一人ノ參事官ニ委任スルコトヲ得タリ然レドモ地圖ノ上ニ區劃シタル勢力範圍ガ漸次獨逸ノ政權、行政及經濟的開發ノ範圍内ニ編入セラレ且或殖民地ニ於ケル殖民的、地方行政ノ任務ハ保護狀會社ニ由リテ實行スルノ不可能ナルコト明ナルニ至リ東部亞弗利加及「ノイギネヤ」ニ於テ帝國早晚自行行政事務ヲ擔當

セザルベカラザルニ及ヒ殖民地中央行政ノ事務ハ益々繁雜ヲ極メタルノミナラズ外務省ノ事務ト全ク別種ノ性質ヲ帶ブルニ至レリ而シテ事務ノ膨張シタル結果ハ遂ニ外務省ニ於テ殖民事務ノ爲ニ特別ノ局ヲ設ケ且本來ノ殖民的行政事務ガ外務省ノ其他ノ事務ト性質ヲ異ニスルガ爲ニ殖民局ハ凡テ本來ノ殖民事務ニ就イテハ直接ニ帝國宰相ニ隸屬スル規定ニ據リ外務省組織中前述シタル如キ特種ノ位置ヲ占ムルニ至リタリ然レドモ獨逸ニ於テハ更ニ殖民局ヲ全然外務省ノ體統ヨリ分離シ殖民地中央行政ヲ舉ケテ之ヲ獨立最高帝國官廳ニ委任スベキ最後ノ大英斷ノ解決ヲ待ツモノアリ千八百九十四年十一月十二日ノ勅令發布ハ當時世間ニ於テモ新聞ニ於テモ一時權宜ノ處置ト認メ獨逸殖民省ノ設置ヲ準備スルモノナリト信ゼラレタリ即同年十二月十五日發行「ベルリ―ネル、ノイエステー、



ナハリヒテン「ハ該勅令ハ獨逸ニ於テ獨立殖民省設立ノ第一着手トシテ之ヲ歡迎スベク且此迂路ハ頗好妙ナル過渡ノ方法ナリト論ジ同日發行ノ「ケルニツシエ、ツアイツング」ハ獨立殖民省ヲ設置スルハ自然ノ趨勢トシテ免ルベカラザルモノナルコトヲ論ジ翌日發行ノ「クロイツ、ツアイツング」ハ該勅令ハ殖民省設立ノ準備ニシテ殖民省ハ一般政策問題ニ關シテハ今尙外務大臣ニ隸屬スト雖斯ノ如キ過渡ノ方法ハ外務省ト全然分離スル準備ナリト解釋スベキコトヲ論シ翌年一月三日ノ「ケルニツシエ、フオルクス、ツアイツング」ハ殖民省ハ此勅令ニ由リ實質上帝國ノ省トシテ設立セラレタルモノニシテ殖民省ガ他ノ省ト對等ノ地位ヲ得ルニ至ルハ單ニ時間ノ問題ニ過キザルコトヲ説明シタリ

然リ而シテ此殖民省ヲ獨立ノ省ニ變更スベキ時宜既ニ熟セル

ヤ否ヤノ問題ヲ判斷スルニ當リテハ次ノ論點ヲ講究セザルベカラズ今ヤ殖民地ハ獨逸帝國ノ面積ニ四倍シ殖民地ノ白人種逐次増加シ其經濟的功用及商業ハ著シク發達シタルヲ以テ行政ノ普及スル範圍擴張セルト同時ニ本來ノ殖民行政事務ハ著シク膨張シ將ニ中央官廳一局ノ堪ユル所ニアラザラントス且ヤ殖民行政ハ國家生活機能ノ全般ニ渉ルヲ以テ殖民省ノ事務ハ程度上既ニ帝國ノ他ノ中央官廳ニ讓ラザルノ設備ヲ見ルニ至リタリ即殖民省ニ於テハ殖民地ノ財政、司法制度、公共土木、交通機關、布教、教育、衛生、地理探險、農業及土地處分、工業及鑛業、商業及航海業、貨幣及銀行等ノ經濟問題、守備隊ノ行政事務、殖民地官吏ノ人事其他殖民地ニ關係アル外交政策及外國交渉ノ問題等ヲ處理セリ而テ殖民省ハ此等一切ノ事件ヲ處理スルニ當リ其重要ノ項ニ就テハ中央政府當該部局就中外務省ノ他ノ部局ト



交渉ヲ經ルモノナリ然ルニ殖民地事情ノ一種特別ナル性質ヲ有スルガ爲ニ幾多ノ問題譬ヘバ土地處分策對土人策、勞働者問題、對大資本問題等モ本國ニ於ケルト別種ノ性質ヲ有シ隨ヒテ中央政府當該部局ノ協力ハ決シテ殖民局自身ノ處務及責任ヲ省略セシムルコトアラザルナリ

殖民局ノ處務ノ範圍及性質ハ疑モナク殖民局ヲ獨立ノ殖民省ニ變更スル正當ノ理由タルベシ然レドモ斯ノ如キ變更ガ絶對的ニ必要ナルヤ否ヤハ殖民局ガ外務省中比較的獨立ノ地位ヲ有セル一局タル現行制度ニ於テハ其任務ヲ完全ニ盡スコト能ハザルヤ否ヤニ由リテ之ヲ決セザルベカラズ

此點ニ就テ先ヅ疑ナキハ殖民局ガ假令中央官廳ノ一局タルニモセヨ其任務ヲ盡スニ必要ナル職員ノ人數ヲ備フルコトヲ得ルニアリ蓋參事官及補助官ノ定員モ中等及下等官ノ定員モ制

限セラレ、處ナク其職員ハ今日既ニ帝國司法省ノ職員ニ比シテ遙カニ多數ナレバナリ又外務大臣ノ如キモ固ヨリ其本來ノ事務ト關係ナキ殖民地行政事務ヲ双肩ニ擔フコト能ハザルモ現制ノ如キ殖民局ノアルアリテ少クトモ形式上殖民事務ノ掌理ヲ免ル、ヲ得タリ然レドモ現行制度ハ殖民局長ヲシテ他ノ獨立官廳ノ長官(大臣)ノ如ク其事務ノ一部ヲ部下ノ局長ニ委任シ之ニ由リテ以テ煩劇ヲ免ル、コトヲ得セシメザルハ明ナリ之ニ加フルニ殖民局長ハ凡テノ行政事務ニ就キ殖民地ノ利益ヲ代表スルモノナリト雖中央官廳ノ他ノ省ニ對シテモ亦議會ニ對シテモ獨立官廳ノ首長ト同一ノ威信ヲ有セズ大凡殖民地ノ利益ヲ主張スルコトハ一般ノ意味ニ於テスラ既ニ困難ナルニ之カ爲ニ更ニ一層ノ困難ヲ感ズルコトアリ

更ニ國法上特種ノ困難ヲ生ゼシムルモノハ殖民局ノ現行官制



ナリ此困難ハ從來法學界ニ於テ未十分講究セラレサル所ナル  
 モ將來殖民事務ノ益膨張スルト共ニ實際上ノ不都合ヲ生ゼシ  
 ムルモノナリ所謂困難トハ千八百九十四年十二月十二日ノ殖  
 民局ノ位置ニ關スル勅令ト千八百七十八年三月十七日ノ帝國  
 宰相代理ニ關スル法律トノ間ニ或抵觸ノ存スルコト是ナリ該  
 法律ニ據レバ帝國宰相ノ代理ヲ設クルニハ次ノ條件ヲ要ス

一、帝國宰相ハ代理セシムベキ事務ヲ自處理スルニ故障ナル

コト

二、該事務ハ帝國直轄ノ行政ニ屬スルコト

三、帝國宰相ノ代理タルベキ官吏ハ最高帝國官廳ノ長官タル

コト

帝國議會ニ提出シタル千八百九十四年十二月十二日ノ勅令ノ  
 理由書中ニ明言セル如ク帝國宰相ハ事々物々ニ就キ殖民行政

ヲ擔任スルコト能ハザルガ故ニ帝國宰相ノ一般責任ノ下ニ帝  
 國宰相ニ責任ヲ有スル中央部局ヲシテ殖民地ヲ指揮セシムル  
 ニアラザレバ殖民地行政ノ統一ヲ保ツコト能ハザルナリ此辨  
 明ハ既ニ殖民行政ノ事務ニ關シテ帝國宰相ノ責任アル代理人  
 ノ必要ヲ認メタルモノナリ然ルニ千八百七十八年ノ法律ニ於  
 テ帝國宰相ノ代理人ヲ任設スル條件中第一第二即宰相自殖民  
 行政事務ヲ處理スルニ故障アルコト及殖民行政ハ帝國直轄ノ  
 行政事務ナルコトノ二要件ヲノミ具備スレドモ帝國帝相ニ隸  
 屬スル最高帝國官廳ノ首長ニ限り帝國宰相ノ代理ヲナスコト  
 ナ得ルノ規定ニ至リテハ是即殖民局長ヲシテ帝國宰相ノ責任  
 アル代理人タラシムルヲ得ザル障礙ナリ蓋殖民局ハ最高ノ帝  
 國官廳ニアラズシテ外務省ナル帝國最高官廳ノ一局部ニ過ギ  
 ザレバナリ



是ヲ以テ「ラバンド」教授ノ如キハ保護領地ノ行政ニ關シ外務大臣ガ帝國宰相ノ責任アル代理人ニ任用セラルベキコトヲ主張シタリ然レドモ此說ハ千八百九十四年十二月十二日ノ勅令ニ所謂保護領地ノ凡テノ行政ハ外務大臣ノ權域ヲ脫シ殖民局ハ殖民行政ニ關スル一切ノ事件ヲ帝國宰相直接責任ノ下ニ處理スベシトノ規定ト矛盾セリ嚴格ニ論ズレハ帝國宰相ハ殖民行政ノ事務ニ關シ責任アル代理人ヲ任用スルコト能ハズシテ既ニ千八百九十四年ニ於テ自其衝ニ當ルニ故障アリト認メラレタル事務ニ對シ直接ニ政治上ノ責任ヲ負ハントスル窮境ニアルモノナリ

斯クノ如ク殖民事務ノ範圍擴張スルト共ニ實際上ノ不都合ヲ生ズル困難ニ對シ唯一ノ善後策ハ最高ノ帝國官廳タル獨立殖民省ヲ設立スルニアリ

然レドモ他ノ一方ヨリ之ヲ觀察スレバ殖民行政ヲ全然外務省ヨリ分離スルノ不可ナル理由アリ獨逸殖民地ノ地方的事業及我殖民地ニ關係アル幾多ノ國際協商ハ重大ナル殖民地施設ヲ行フニ當リ他ノ殖民國トノ交渉及協商ヲ必要ナラシメタリ其外殖民行政ハ幾多ノ點ニ於テ外國ニ於ケル獨逸ノ宣教師及大使館公使館領事館ノ親善ナル助力ヲ要スルコト多シ此殖民中央行政ノ事務ニ關シテハ殖民局ノ外務省ニ隸屬スル制度ハ雙方尠カラザル利益アルモノナリ殖民局ニシテ外務省ノ一部タル間ハ殖民事務ニ關スル外國交渉事務ヲ——外務大臣ノ協力及責任ノ下ニ——自直接ニ處理シ且外國ニ於ケル獨逸宣教師ト直接ノ交渉ヲナスコトヲ得ベキモ獨立ノ省トナル時ハ此重要ニシテ頻繁ナル事務ニ就キ一々外務省ノ媒介ヲ求メザルベカラス果シテ然ラバ外務省モ殖民行政モ處務上共ニ尠カラザ



ル困難ヲ感ズベシ外務省ト殖民行政トヲ合併スル理由ハ獨此事務的便宜ノミニアラズシテ殖民政策ト外交政略トノ親密ナル關係ヲ有スルコトニアリ世界ニ於ケル政治的及通商政略的潮流及進化ノ趨勢ヲ觀察シタルモノハ何人モ所謂帝國主義ト稱スル思想及計畫ノ流行ト共ニ海外所領地ハ歐洲文明諸國ノ外交政略及經濟政策ニ益重大ノ關係ヲ有スルニ至リタルコトヲ覺悟スベシ獨逸國ノ如ク其人口ハ迅速ニ増加シ其外國貿易ハ益發達スル國ニ於テ未來ノ政治上及經濟上ノ大成ヲ期スル以上ハ殖民地ノ財源ヲ利用スルコトノ如何ハ國計ニ取り死活ノ問題ナリト云ハザルベカラズ

殖民局ヲ外務省ヨリ分離シタラン後ト雖モ外交政策ト殖民政策トノ必要ナル聯絡ハ之ヲ維持シ能ハザルニアラズ即凡テノ帝國行政ハ帝國宰相ニ由リテ統一セラルレバナリ然レドモ外

交政策ト殖民政策トノ聯絡ヲ成ルベク確實ナラシムルハ殖民局ヲ獨立セシムベキ前述ノ理由ニ比シテ少クトモ同等ノ重キヲ有スル理由ナリ

斯ノ如ク殖民行政ト外務省トノ聯絡ヲ維持スル理由ヲ以テ重シトスルモ殖民行政ノ一層ノ獨立ヲ圖リ千八百八十九年ノ佛國ノ先例ニ倣ヒテ一步ヲ進ムルノ必要ハ到底之ヲ避クベカラズ即殖民地ノ爲ニ外務省内ニ「ウンテル、スターツ、ゼクレタリヤ」ト「殖民次官制」ヲ設クルトキハ二者ノ連絡ヲ保チ而モ内外ニ向ヒテ必要ナル獨立ヲ維持スルコトヲ得ベキナリ此「ウンテル、スターツ、ゼクレタリヤ」ニテハ局長ヲ置キテ以テ殖民行政長官(殖民次官)ノ事務ヲ輕減スルヲ得ルコト毫モ外務省ヨリ分離シタル帝國殖民省ニ讓ラザルベシ殖民次官ハ内部ニ於テ殖民中央官廳ノ組織及人事ニ就キ完全ナル獨立ヲ有スルコト恰



モ大臣ノ其省ニ於ケルガ如ク又殖民局長ガ今日既ニ保護領地ノ行政組織及人事ニ就キ占有スル獨立ノ如クナルベシ殖民次官ハ千八百八十九年ノ佛國制度ノ如ク官等ニ於テハ大臣ト同格ナラシメ且帝國宰相代理法ノ追加ヨリシテ他ノ長官同様ニ殖民事務ニ就キ帝國宰相ヲ代理スルコトヲ得セシムベキ規定ニ據リ外部ニ對シテ殖民官廳ノ獨立ヲ表明スルコトヲ得ベシ

## 第二章 地方行政

保護領地法又ハ其地ノ帝國法律ガ殖民地中央行政ノ組織ニ關スル明文ヲ掲ケザル如ク各保護領地ノ行政組織ニ關シテモ帝國法律ノ規定存スルモノナシ然レドモ保護領地法第一條ニ據リ皇帝ハ帝國ノ名義ヲ以テ保護領地ニ保護權ヲ行使スルガ故ニ帝國宰相ハ殖民行政ノ首長タルノミナラズ皇帝ハ保護領地ノ行政組織ヲ獨立シテ規定スル權能ヲ有スル結果ヲ生ズ皇帝ノ權能ハ領事裁判法及保護領地法ニ由リテ規定セラレタル裁判所ノ構成ニ及ハズ且千八百九十二年三月三十日ノ帝國法律ノ結果保護領地豫算ノ確定ハ立法ノ手續ニ由ルベク隨ヒテ皇帝ハ未豫算法ニ由リテ必要ナル經費ヲ承諾セラレザル官廳ヲ設置スル點ニ於テ制限ヲ受クルニ過ギス



保護領地行政ノ首長トシテ皇帝ノ官吏アリ總督 Gouverneur (マルシヤル島ニ於テハ Landeshauptmann) ト稱シ殖民地ニ於テ母國ノ主權ヲ總攬ス而シテ總督ハ帝國宰相及殖民事務ヲ管掌スル官廳即外務省殖民局ニ隸屬スルモノトス總督ハ母國權力ノ代表者タル資格ヲ以テ一面ニハ殖民地ノ爲ニ發布セラレタル帝國法律、皇帝及帝國宰相ノ命令、殖民局ノ指令ヲ執行シ一面ニハ此等ノ法律命令ニ由リテ定メラレタル範圍内ニ於テ獨立シテ活動スベキモノナリ千九百三年九月二十七日ノ帝國宰相ノ命令ハ總督ニ其管轄區域内ニ對スル警察及其他ノ行政ニ關スル規則ヲ發スル權限ヲ委任シタリ要スルニ總督ハ其管轄區域ニ對シ苟モ帝國法律、勅令又ハ帝國宰相ノ命令處分ニ由リテ既ニ規定セラレタルカ又ハ帝國立法權、皇帝又ハ帝國宰相ニ留保セラレザルコト明ナル限リハ一切ノ事項ニ就キ立法及行政ノ權

限ヲ有スルモノナリ  
 總督ハ其廣大ナル任務ヲ履行スルニ必要ナル幾多ノ官吏ヲ附隨セシメタリ又保護領地各官廳ノ首長タル官吏 Referenten モ總督ト合議體ヲ成スモノニアラズシテ寧總督ニ隸屬シ其指揮ニ從ヒ總督ノ事務ヲ處理スベキモノトス  
 保護領地ニ於テ白人ノ増加及經濟的利益ノ漸鞏固ナルト共ニ保護領地行政事務ニ就キ漸次保護領地ノ住民ニ與フベキ參與權如何ノ問題勃興シタリ殖民地ヨリハ以前ヨリシテ總督ニ附置スル商人、栽培業者及其他ノ利害關係人ヨリ組織シ且多少廣大ナル權限ヲ有スル評議會ヲ以テスベシトノ要求提出セラレタリ

殖民行政モ斯ノ如キ評議會ガ保護領地ノ發達ニ効用多カルベキコトヲ知ラザリシニアラズ譬ヘバ「カメルン」及「トーゴ」ニ於



テ殖民地獲得後間モナク「行政評議會」ナルモノヲ設置シタルガ如キハ即此認識ニ基因シタルモノナリ尤此等ノ總督府評議會ノ制度ハ少カラザル困難ヲ生シ而モ此困難タル今尙存在スルモノニシテ現ニ千九百三年總督府評議會ノ設置ニ關スル殖民評議會(中央政府ニ在ル殖民當局者及當事者ノ評議會)ノ會議ノ際「カメルン」ニ對スル「ウエオルマン」及「トイゴ」ニ對スル「ウ井トール」ノ如キ著名ナル商店ノ主人ハ總督府評議會ナル制度ガ適切ナルヤ否ヤノ問題ニ付キ懷疑的意見ヲ發表シタル有様ナリ此等ノ人々ハ該保護領地ニ於テ風土氣候ノ關係ノ爲ニ重ナル商店ノ代理人ニハ往々無經驗ナル若年者アルヲ以テ到底之ヲ總督府評議會員トナス能ハズ寧嘗テ外國ニアリタル主人其者ヲ總督府評議會員トナシ總督府評議會ハ獨逸國ニ於テ開會スルノ優レルニ如カザルコトヲ論シタリ(著者ノ註、獨逸ニ住居ス

ル殖民地大企業ノ主人ハ既ニ所謂殖民評議會ニ於テ代表セラレタリ其外殖民局ハ近來經濟上ノ重要問題ヲ決定スルニ當リテハ常ニ獨逸ノ利害關係ヲ有スル商店ト交渉ヲ重キタリ譬ヘバ東部亞弗利加貨幣制度「カメルン」及「トイゴ」ノ關稅率改定ノ際ノ如シ此困難ニ加フルニ總督府所在地ト各商業其他ノ企業地トノ距離遠ク而モ交通機關ノ不完全ナル困難アリ其外各殖民地ニ於テハ企業者ノ數比較的ニ少ク而モ競争激烈ナルガ爲ニ特種ノ困難ナル事情アリ即凡テノ企業者ノ代表者ヲ總督府評議會員トナスコト能ハズ且評議員ノ員數ヲ制限スルニ就キ各企業者ノ和解ヲ望ムコト能ハザレバナリ譬ヘバ「トイゴ」ニ於テ評議會制度ノ實施後半年ニシテ最初豫定シタル三人ノ會員ニ代フルニ「トイゴ」ニ在ル凡テノ企業者ノ代表者ヲ行政評議會員トナスノ必要ヲ生ジタルガ如シ然ルニ期日ニ於テ到底



全會員ノ出席ヲ望ムベカラザルコト亦明ナリキ事態斯ノ如キ  
 ナ以テ「トーゴ」及「カメルン」行政評議會ニ關スル規則ハ漸次廢  
 絶ノ姿ニ歸シタリ之ニ加フルニ利害關係人ノ任意團結ノ徵候  
 ナ呈シ總督府モ事件毎ニ最利害關係ノ近キ企業者ト交渉スル  
 ニ至リタリ

斯ノ如ク事件毎ニ保護領地ノ利害關係人ト隨意交渉スル方法  
 ハ他ノ總督府殊ニ東部亞弗利加及「ノイギチヤ」總督府ノ採用ス  
 ル所トナレリ東部亞弗利加ニ於テハ商店ノ代表者ヲ評議員ト  
 ナスニ就キ「カメルン」及「トーゴ」ト同様ナル困難ノ事情アリ夫  
 ノ東部亞弗利加ノ商業ヲ左右スル二大商店即東部亞弗利加會  
 社及「ハンジング、ウント、コンパニー」ハ從來本店ヲ「ザンジバル」  
 ニ有シ獨領沿岸ニ於テハ若年者ヲ代理人トナシタリ其他小ナ  
 ル獨立商店ハ競争激烈ナル爲ニ共同ノ評議ヲナサシムルコト

困難ナリ之ニ反シテ栽培業者ハ既ニ久シキ以前ヨリ栽培業者  
 組合ヲ設ケ栽培業者ト總督府トノ間ニ介立スル適當ノ組織ヲ  
 有シタリ東部亞弗利加ニ於テハ總督府ニ所謂報告會議フオールトラクスマツツンナルモ  
 ノ行ハレシコト既ニ久シク「レフエント」即各行政部局ノ長出席  
 シ且一般ノ利害ニ關スル問題ヲ評議スル方法設ケラレタリ又  
 「コンムーネン」(市町村)ニ於テハ人民ノ代表トシテ區評議會ベタルクナル  
 モノアリ

他ノ保護領地即南西亞弗利加「ザモア」及膠州灣ニ於テハ總督府  
 評議會ノ設立ニ就キ一般ノ狀況有利ナルガ如シ南西亞弗利加  
 ノ總督ハ千八百九十九年十二月十八日ノ通牒ヲ以テ區「ベチル  
 クスハウプトマンシヤフテン」ニ向テ普通人民ヨリ評議會ヲ構  
 成スベキコトヲ要求シタリ評議會ハ三人ノ議員及三人ノ豫備  
 議員ヨリ編成セラレ實行シ得ル限りハ人民ヲシテ議員ヲ撰舉



セシメ其他ハ區長(ベチルクスハウプトマン)ニ於テ撰定スベキモノトス任期ハ一ケ年ナレドモ議員ハ再撰セラレ若クハ再任スルコトヲ得「ウ井ンドフーク」ニ於テハ總督ハ總督府ノ事務ヲ區評議會ニ諮問スル目的ヲ以テ若干ノ會員ヲ増加スルコトヲ得タリ撰舉若クハ任命ノ方法ニ就イテハ各區ノ自由ニ放任セラレタルガ「ウ井ンドフーク」ニテハ商人、栽培業者、職工ガ各一人ノ代表者及一人ノ補缺員ヲ撰舉スル方法ヲ採リ「ギベオン」ニテハ帝國臣民タル區住民ノ撰舉ニ由リテ「ギベオン」ヨリ四人「ク井ス」「マリエンタール」及「ゴツカイス」ヨリ各一人「マルターヒオーヘー」ヨリ二人ノ議員ヲ出シ「スワコプムンド」及「ケートマンズホー」ニテハ區長ハ評議會々員ノ任命ヲ留保シタリ「ウツチオー」「グロートフォンテーシ」及「ゴバビス」ニハ從來區評議會ナシ「ザモアー」ノ總督ハ千九百年五月十日總督府評議會設立ニ關ス

ル告示ヲ發シタリ「ザモアー」ヲ獨領保護領地トシテ宣告スル以前ヨリ該地ノ移住者ハ既ニ町村會ノ組織ヲ有シタリシガ獨逸政治ノ施行ト共ニ廢絶ニ歸シタリ總督ハ此町村會ニ代ユルニ七人ノ議員ヨリ成立スル總督府評議會ヲ以テシタリ其目的ハ一方ニ於テハ保護領地ノ商業上及農業上ノ發達ヲ圖ル新規ノ制度ノ適否ニ就キ評議シ一方ニ於テハ人民ヲシテ此委員會ニ由リテ其發議及意見ヲ總督府ニ上達セシムル機會ヲ與フルニ在リ

膠州灣ニ於テハ千八百九十九年總督府評議會ヲ設ク各行政部局ノ長ヲ以テ之ヲ組織シタリ千八百九十九年三月十三日ノ總督府ノ命令ニ由リテ普通人民中ヨリ三人ノ代表者ヲ撰定セシメ總督府ハ町村(Zivilgemeinde)ニ關スル事務ニ就キ意見ヲ諮詢シ町村ト總督府トノ媒介ヲナサシメントス此普通人民ノ代表者



ハ總督ノ意見ニ由リテ總督府評議會ノ會議ニ列席セシムルコトアルモノナリ此代表者ハ左ノ方法ニ由リ撰定セラル、モノトス

一、一人ノ代表者ハ總督府評議會ニ諮詢シタル後總督之ヲ任命ス

二、第二ノ代表者ハ商業登記簿ニ登記セラレタル非支那人商店ノ互撰ニ係リ各商店ハ一投票權ヲ有スルモノトス

三、第三ノ代表者ハ土地臺帳ニ登記セラレタル納稅義務アル地主中ヨリ互撰セラレ地租ノ年額尠クトモ五十馬克ニ達スルモノナルコトヲ要ス各土地ニ付キ一票ヲ與フルモノ人ノ地主ハ數票ヲ有スルコトヲ得ズ

代表者ノ任期ハ一ケ年トス代表者ハ一般ノ經濟的利益ニ關スル規則ノ發布又ハ處分ノ施行前意見ヲ諮詢セラル、モノトス

斯ノ如ク各保護領地ニ於テ各總督ノ發議ニ由リ人民ヲシテ行政ニ參與セシムル端緒ヲ開キタル今日ニ際リ保護領地實業者ノ代表制度ニハ統一シタル法律上ノ基礎ヲ有セシムベシトノ希望ヲ生ジタルコト固ヨリ當然ナリ是ヲ以テ千九百年三月二日殖民局ハ阿弗利加及南洋ニ於ケル保護領地ノ各總督府ニ對シ總督府評議會ノ設置問題ニ就キ意見ヲ諮詢シタリ然ルニ當時各總督府ハ嘗テ説明シタル如キ困難ヲ理由トシテ法律ヲ以テ評議會ヲ設クルコトニ就キ及公然ノ評議會ニ由リテ收ムルコトヲ得ベキ利益ニ就キ懷疑的答申ヲ行ヒタリ南西亞弗利加ノ總督ハ既ニ區評議會ヲ設ケ且法律上人民ノ代表制度ヲ設クル意見ニ最賛成スルモノナルガ該保護領地人民ノ狀況ニ鑑ミテ區評議會制度ノ如キ地方分權組織ニ重キヲ置キ之ヲ以テ總督府評議會ニ優ルト認メタリ況ンヤ「ウ」井ンドフ「ク」區評議會



ハ時トシテ之ヲ總督府評議會ニ利用スルヲ得ルニ於テオヤ  
 千九百二年二月十七日獨逸殖民協會々頭ハ總督府評議會設置  
 ニ關スル委員會ノ決議ヲ帝國宰相ニ上申シタリ此決議ニ據レ  
 バ保護領地ノ總督ニ附置スベキ評議會ハ保護領地ノ高等官及  
 成ルベク此ト同數ナルカ將少クトモ三人以上ノ員數ヲ以テ文  
 武官ニアラザル保護領地住民ヲ舉ケテ之ヲ組織シ官吏ニアラ  
 ザル議員ハ帝國宰相之ヲ任命シ評議會ニハ豫算案及命令案ヲ  
 諮詢スルモノトセリ該決議ノ理由トシテ添附シタル報告書ニ  
 ハ總督府評議會ノ目的ハ保護領地經濟上ノ發達ニ就キ健全ナ  
 ル判斷ヲナシ得ル人物ヲシテ行政ニ參與セシメ以テ總督ノ責  
 任ヲ輕カラシムルニ在ルコトヲ論ジタリ該報告書ハ各保護領  
 地ニ於テ既ニ人民ヲシテ行政ニ參與セシムル事實ヲ認メタル  
 モ現在ノ評議會ハ行政ノ編制中ニ在ラズシテ總督ノ任意ニ放

任セラレタル缺點アルヲ指示シタリ獨逸殖民協會ノ意見ニ  
 據レバ各殖民地トモ既ニ評議會ヲ設置スル機運ニ達シタルナ  
 リ千九百三年殖民局長ガ殖民評議會ニ提出シタル總督府評議  
 會設置ニ關スル帝國宰相ノ命令案ハ凡テ重要ナル點ニ於テ獨  
 逸殖民協會ノ發議ヲ採用シタリ該命令案ハ殖民評議會ノ修正  
 ナ經タル後千九百三年十二月三十一日ニ帝國宰相ヨリ發布セ  
 ラレタリ該命令ハ膠州灣(現行制度ヲ維持ス)及「コルシヤル」諸島  
 「カロリン」「パラウ」「マリアーネン」ヲ除ク外凡テノ保護領地ニ施行  
 セラレタリ其要點左ノ如シ  
 總督府評議會ハ總督定數ノ保護領地官吏(官吏評議員)及保護領  
 地ノ白人種住民(非官吏評議員)又ハ其代理人ヲ以テ組織ス總督  
 府評議會ニハ少クトモ三人ノ非官吏評議員アルコトヲ要シ官  
 吏評議員ノ數ハ非官吏評議員ノ數ヲ超ユルコトヲ得ズ



總督ハ總督府評議會ノ官吏評議員ヲ任ジ且非官吏評議員ヲ召集ス非官吏評議員ノ任期ハ總督之ヲ定ムルモ少クトモ一ケ年以上ナルコトヲ要ス非官吏評議員ハ保護領地ニ住居ヲ有セザルベカラズ

總督府評議會ニハ評議ノ爲ニ次ノ議案ヲ提出ス

一、殖民局ニ提出スベキ毎年ノ豫算ニ關スル發議

二、總督ノ發布シ又ハ發議スベキ命令案ニシテ單ニ一地方的効力ヲ有スルニ止マラザルモノ

(44)

總督ガ例外トシテ議案ノ提出ヲ見合セタル時ハ其旨殖民局ニ報告スベシ

總督ハ前述ノ事項以外ノ議案ヲモ總督府評議會ニ提出スルコトヲ得

會議ハ總督其時日ヲ指定シ且之ヲ指揮ス會員ニハ適當ナル時

期ニ於テ議事日程ヲ通知スベシ非官吏評議員ノ發案ニシテ議事日程ノ獨立ノ題目ヲ成スモノハ書面ヲ以テ提出スベシ總督ハ第二ノ非官吏評議員ノ賛成ナキ發議ハ議事ニ附スルコトヲ拒絕スルコトヲ得

採決ハ總督又ハ非官吏評議員ノ意見ニ依リテ之ヲ行フ

總督ハ採決ヲナシタル場合ト雖評議ノ結果ニ拘束セラル、コトナシ總督府評議會ノ會議ニ就テハ議事録ヲ調製シ其謄本ヲ殖民局ニ提出スベキモノトス

(45)

此千九百三年十二月二十四日ノ帝國宰相ノ命令ニ由リテ保護領地白人種ノ代表制度定リ且其基礎ハ大體既ニ久シク英國、佛國及和蘭ノ殖民地ニ行ハレタル所ト同様ナルニ至レリ而シテ此命令ニ對シテハ公布後間モナク幾多ノ方面ヨリ保護領地白人ノ權利ヲ承認スルコト充分ナラズトノ異議提出セラレタリ



就中總督府評議會會員ガ總督ニ由リテ任命セラレ且總督府評議會ノ權限ヲシテ諮詢ニ答申シ會議ヲナスニ止マラシメタルハ新制度ノ最批評ヲ免カレザル所ナリキ是ニ於テカ評議員少クトモ非官吏評議員ハ保護領地白人種住民ノ普通撰舉ニ由リテ撰舉セラレ且其員數ハ評議會ニ於テ多數ヲ占メザルベカラズトノ要求提出セラレタリ其外總督府評議會ハ立法及行政事項ニ就キ單ニ諮詢ニ答申スルニ止マラズ議決ノ權利ヲ有スベク少クトモ總督ハ總督府評議會ノ決議ニ成ルベク服従スルノ義務ヲ有セザルベカラズトノ說主張セラレ兩者ノ間根本的ニ意見ヲ異ニスル場合ハ總督府評議會ハ殖民局ニ訴願ヲナスノ權利ヲ有セザルベカラズト云ヘリ

總督府評議會ノ會員ハ之ヲ任命スベキカ將之ヲ撰舉セシムベカノ問題ニ關シテ述ベシニ人民自選舉シタル代表者ノ制度

ハ任命ニ係ル代表者ノ制度ニ比スレハ重要ナル點ニ於テ優レル所アルハ之ヲ認メザルヲ得ズ蓋選舉ノ方法ヲ採ルトキハ評議會制度ヲ以テ單ニ裝飾的効力ヲ有スルニ過ギストシ又ハ總督ノ意見ト一致セザル分子ガ評議會ヨリ遠ケラルベシトスルカ如キ嫌疑ヲ避クルコトヲ得レバナリ總督ハ選舉ニ係ル評議會ニ由リテ時ニ或ハ鞏固ナル反對ヲ受クルコトアルベキモ是必シモ常ニ有害ノ性質ヲ帶アルモノニアラズ他ノ一面ヨリ觀察スレハ總督ハ選舉ニ係ル評議會ニ由リテ中央政府議會、本國及殖民地白人種ノ輿論ニ對シ有力ナル後援ヲ受クルコト自己ノ任命ニ係ル評議會ノ比ニアラザルナリ

然リト雖普通選舉ニ基ク評議會制度ノ施行ハ或條件ノ存スルトキニ限り而モ此條件タル我保護領地中膠州灣及南西亞弗利加ノ或地方ヲ除ク外未完備セザルヲ奈何セン普通選舉ノ制度



ハ多數若年者ガ迅速ニ交迭シ又ハ少クトモ未全ク土着セザル白人種ヲ有スル保護領地又ハ廣大ナル面積ニ散布スル人口稀薄ノ保護領地又ハ交通機關ノ極メテ不完全ナル保護領地ニ於テハ未之ヲ採用スルノ機運ニ達セザルモノナリ是レヲ以テ他ノ殖民國ニ在リテモ我獨領保護領地ト地理上ノ關係、人民ノ狀態及經濟上ノ發達ニ於テ最類似セル殖民地ニ於テハ總督ニ附置スル評議會ハ普通選舉ニ出テズシテ任命ニ係ル所以ヲ理解スルコトヲ得ベシ此ハ殊ニ英國ノ王領殖民地ニ就テ然リトス抑英國ハ充分發達シタリト認メタル殖民地ニ於テハ議會ニ對スル責任政府ノ如キ本國ノ議院政治主義ヲ應用シ責任政府ヲ有スル自治殖民地又比較的ニ進歩シタル他ノ殖民地ニハ少クトモ選舉ニ出デタル議會ヲ有スル代議制度ヲ施行シ政府ハ議會ニ對シ立法ニ關シテ拒否權ヲ有スルニ止メ代議制度ヲ有ス

ル殖民地タルニ拘ハラズ其殖民地ノ大部分タル王領殖民地ニ於テハ立法議會ノ議員今日尙一部ハ殖民地ノ第一ノ行政官一部ハ一人ヨリ構成セラレ何レモ君主ノ任命ニ係ル主義ヲ採用シ居レリ之ニ加フルニ王領殖民地ノ立法議會ニ於テハ殆んど皆官吏議員ノ多數ヲ占ムルアリ之ニ反シテ獨逸ノ制度ニ於テハ非官吏議員ノ數ハ官吏議員ノ數ト少クトモ同數ナルヲ要スルノ規定アリ例ヘバ英國ニ在リテ「ゴールドコースト」殖民地ニ於テ評議會ハ六人ノ官吏四人ノ私人ヨリ「ガンビヤ」殖民地ニテハ五人ノ官吏二人ノ私人「ラーゴース」殖民地ニテハ六人ノ官吏五人ノ私人「シーラーレオネ」殖民地ニテハ七人ノ官吏四人ノ私人「フ井ジ」殖民地ニテハ七人ノ官吏六人ノ私人「ニューギネヤ」殖民地ニテハ六人ノ官吏一人ノ私人ヨリ構成セラレタル類ノ如シ此點ニ關スル唯一ノ例外ハ「モーリシアス」王領殖民地



ニシテ其立法議會ハ他ノ王領殖民地ト異リ少クトモ一部ハ選  
 舉ニ係ル議員ヲ有シ議會ハ九人ノ官吏九人ノ任命セラレタル  
 私人十人ノ選舉セラレタル私人ヨリ構成セラレタリ英國ノ王  
 領殖民地ニ於テ非官吏議員ノ任命ハ國王之ヲ行ヒ獨領保護領  
 地ニ於テ總督之ヲ行フハ決シテ大ナル差異アルニアラズ蓋國  
 王ノ任命ト雖總督ノ推薦ニ依リテ之ヲ行フモノナレバナリ  
 總督府評議會會員任命ノ權ハ何人ニ屬スルヲ問ハズ無制限ナル  
 專横ト同一ニアラザルヤ明ナリ斯ノ如キ評議會ノ目的ハ殖民  
 地事情ニ關スル私人ノ智識及經濟上ノ經驗ヲ行政上ニ利用シ  
 且私人ノ利害ヲシテ行政事務ノ指揮上ニ勢力ヲ及ボサシムル  
 コトヲ許スニ在ルヲ以テ此目的ハ選任ノ標準タルベク且此標  
 準ニ由リテ總督府評議會ノ會員トナルベキ人ノ範圍ハ我何レ  
 ノ保護領地ニ於テモ決シテ多數ヲラザルナリ尙千九百三年十

二月二十四日ノ帝國宰相ノ命令ニ於テ總督ハ非官吏會員ノ任  
 命ニ際シ同業社會ノ意見ヲ諮詢スベキ規定アリ其主意タル一  
 ハ保護領地ノ各職業ヲシテ總督府評議會ニ代表セシメ一ハ總  
 督ヲシテ任命前各同業社會ニ其信用ヲ有スル人物ヲ指名セシ  
 ムル機會ヲ與ヘシメントスルニ在リ各殖民地ノ事情異ナルガ  
 爲ニ如何ナル方法ヲ以テ人民ノ意見ヲ徵スベキカノ細則ハ各  
 總督府ノ施行細則ニ委任セザルヲ得ザリシナリ同業社會ノ協  
 力ニ關スル規定ハ漠然タルガ故ニ各地方ノ狀況ニ適合スルコ  
 トヲ得ベカラシメ且將來非官吏會員召集ノ手續ヲシテ時勢ニ  
 一致スルコトヲ得セシメタリ今日既ニ實業者ノ發起ニ由リテ  
 栽培業者組合商業會議所ノ如キ團體ノ成立シタル地方又ハ將  
 來成立スベキ地方ニ於テハ總督ハ此等ノ團體ニ評議會員推薦  
 權ヲ與フルコトヲ得ベシ又千九百年來南西亞弗利加ニ於テ評



議會ニ就キ實行スルガ如キ普通選舉ニ適當ナル事情存スル場合ニハ總督ハ此方法ニ由リ人民ヲシテ其信任スル人ヲ舉ゲシムルコトヲ得ベシ

次ニ總督府評議會ノ權限ヲ擴張シ單純ナル諮詢會タル性質ヲ變シ之ヲ議決會タラシメントスル第二ノ問題ニ關シテ述ベンニ我殖民地ノ現在ノ狀況ニ於テ人民ノ選舉制度ヲ採用スル能ハサルト同一ノ理由ハ總督府評議會ヲシテ議會タラシメ並ニ法律ノ成立及重要ナル行政事務ニ就キ其同意ヲ要スル制度タラシムルコトヲ許サズ之ニ加フルニ更ニ重要ナル理由アリ即「トイゴ」ヲ除ク外獨逸ノ保護領地ハ財政上未獨立スルコトヲ得ズシテ母國ヨリ多額ノ補充金ヲ仰グノ狀態ニ在ルコト是ナリ抑議會ナルモノハ金錢承諾ノ目的ニ出デタル集會ニ胚胎シタルモノニシテ今日ト雖金錢承諾ノ權利ハ最重大ナル立憲的

權利ノ一ト認メテ、處ナリ然ルニ殖民地ノ行政事務ヲ實行スル爲メノ物資ガ殖民地自身ヨリ醸出セラレズシテ其大部分ガ母國ノ負擔ニ係ル場合ニ當リ殖民地人民ニ議決的代表制度ヲ與フルハ其宜シキヲ得タル者ニアラズ蓋凡テ重要ナル法律及行政處分ハ直接又ハ間接ニ收入支出ニ關係シ隨ヒテ母國補充金額ニ多大ノ影響ヲ及ボスモノナレバナリ殖民地評議會ノ權限問題ハ此點ニ於テ母國殖民地間、殖民地中央行政、地方行政間ノ關係如何ト相關聯スル所ナリ本問ハ別章ニ之ヲ論ズベシ

前述シタル理由ニ由リ英國王領殖民地ニ於テモ總督ヲシテ其評議會ノ決議ニ拘束セラレシムルコトヲ避ケタリ唯選舉ニ出デタル代議制度及確實ナル財政上ノ獨立存在スル場合ニ限り英國殖民地ニ於テモ責任政府ヲ有スル完全ナル自治ヲ認メ又ハ少クトモ選舉ニ出デタル議會ヲ立法議會トスル代議制度ヲ



施行セリ而モ代議制度ヲ有スル殖民地ニ於テモ公金ノ用途ニ  
關スル凡テノ處置ハ往々ニシテ專總督ノ發議ニ保留セラレタ  
リ  
斯ノ如ク獨逸ノ保護領地ニ於テハ當分ハ總督府評議會ニ單ニ  
評議的職權ヲ認メ總督ニ自由ナル裁決權ヲ與ヘザルヘカラズ  
ト雖總督ガ其命令及行政處分ヲ行フニ當リテ總督府評議會ノ  
意見ニ反對スルハ例外ニ屬シ且重大ナル理由ノ存在スル場合  
ニ限ルベシトスルヲ以テ新制度ノ趣旨ナリト認メザルベカラ  
ズ總督ノ其措置ニ關スル責任ハ總督府評議會ノ贊成ヲ得タル  
時ヨリモ總督府評議會ノ意見ト矛盾シタル時ニ於テ一層重ク  
且直接的ナルヘシ評議會ノ議事録ハ其都度殖民局ニ提出スベ  
シトノ規定モ畢竟スルニ總督ガ其措置ニ就キ如何ナル場合ニ  
於テ總督府評議會ノ意見ト一致シ若クハ矛盾シタルカ及反對

說就中非官吏評議員ノ反對說ノ理由如何ヲ中央政府ニ報告セ  
シムルコトヲ目的トスルモノナリ斯ノ如キ規定ノ外更ニ總督  
府評議會ニ與フル總督ノ意見ト衝突シタル場合ニ於ケル訴願  
權ヲ以テシ又ハ總督ヲシテ成ルベク評議會ノ決議ニ從フベキ  
義務ヲ負擔セシムルガ如キハ無用且有有害ナリ就中總督ハ其舉  
措ニ關シ評議會ノ議決ニ成ルベク服從スル義務ニ由リテ責任  
ヲ免ル、コトヲ得ベキモノニアラズ  
之ヲ要スルニ總督府評議會制度ノ主旨ハ殖民地白人種ガ公共  
事務ニ協力スル權利ヲ承認シ且此協力ニ關スル法律上ノ基礎  
ヲ設クルニ在リ新制度ハ此基礎ノ上ニ於テ實際上奏効シ且發  
達シ得ベキモノナリ總督府評議會ガ各保護領地ノ行政ニ如何  
ナル効用ヲ致サンカハ主トシテ各保護領地ノ經濟上及財政上  
ノ發達如何ト總督府評議會ノ實力如何トニ關スルモノナリ保



護領地ニ於テハ經濟的利益ノ愈々大ナルニ隨ヒテ此利益代表者ノ意見ハ愈々重キヲ加フベシ保護領地ガ自己ノ收入ニ由リテ其經費ヲ支辨スルコト愈々多キニ隨ヒテ保護領地人民ノ代表者ガ此收入ノ用途ニ關シ殖民地全體ノ行政ニ干涉スベキ權利ヲ要求スルコト愈々多カルベシ總督府評議會自身モ保護領地人民ガ行政ニ關與スルコトニ熟シ自己ノ見識ト努力トヲ公益ノ用ニ供スルコトヲ承諾シ并ニ自己ノ利益ヲ主張シ又ハ無益ナル反對ヲ試ムルコトヲクシテ大事ニ堪フル人物ノ豐富ナルコトヲ示サザルヘカラズ殖民地ニ於テハ困難ナル事業アルヲ以テ代議制度モ其有益ナル活動ヲ試ムベキガ爲ニハ議員ノ人物ニ多大ノ要求ヲサザルヘカラズ就中議員ガ其個人的利益個人的意見ヲ社會全體ノ幸福ノ爲ニ犠牲ニ供スルコトヲ得ル能力ヲ有セザルベカラズ此等ノ要件ヲ缺ク時ハ人民ヲ代表スル評議

會ハ利益ヨリモ却テ損害多キ結果ヲ生ジ就中無益ナル黨派ノ争ニ由リテ有爲ナル力ヲ分裂セシメ行政ノ活動力ヲ麻痺セシメ土人ニ對シ政府及白人種ノ威信ヲ動搖セシムル弊害ヲ生ズベシ

千九百三年十二月廿四日ノ命令ノ價值モ凡テ此等ノ點ニ就イテハ將來ノ經驗ヲ待タサルベカラズ保護領地白人種ノ代表者ガ殖民行政上此命令ニ由リテ造ラレタル基礎ノ上ニ於テ其位置ヲ主張シ得ルト否トハ一ニ自己ノ分内ニ在リト謂ハザルベカラズ



第三章 中央行政ト地方行政トノ關係

獨乙保護領地ノ地方行政ハ現行法規ニ據レバ無條件ニテ母國ノ殖民地中央行政ニ隸屬シタルモノナリ帝國宰相ハ凡テノ殖民行政ニ付キ責任ヲ負フモノトス此制度ノ結果トシテ殖民地ニ於ケル行政及之ヲ擔當スル官廳ハ帝國宰相及帝國宰相ノ直接責任ノ下ニ殖民事務ヲ處理スル外務省ノ殖民局ニ對シ隸屬ノ關係ヲ有スルモノナリ此結果ハ千八百九十四年十二月十二日ノ勅令ニ於テ明言セラレタリ曰ク「保護領地ノ凡テノ行政ハ官廳及官吏ヲ併セテ外務省殖民局ニ隸屬セシム」ト然レドモ此ノ如ク保護領地ノ地方行政ヲ中央行政ニ隸屬セシムル制度ヲ採用スルモ地方行政及其首長タル總督ヨリ一切ノ獻策及一切行動ノ自由ヲ剝奪シ乃至總督ニハ僅ニ執行機關タル機能ヲ委

任スルニ過キザル趣旨ニ非ルナリ總督ハ母國主權ノ代表者トシテ母國ノ立法權及政府ノ發シタル政令即チ殖民地ニ適用セラル、法律、勅令、帝國宰相及殖民局ノ命令ノ執行機關タルベキコト當然ナレトモ此等ノ政令ハ總督ノ獻策ニ對シ廣大ノ餘地ヲ存シ就中本然ノ行政事務ノ如キハ總督カ中央官廳ノ大體ノ指揮ニ從ヒ獨立シテ之ヲ執行スル所ノモノナリ加之立法權ノ範圍ニ於テモ總督ハ甚シク狹隘ナラザル餘地ヲ有セリ皇帝及帝國宰相ハ保護領地法及其他ノ帝國法律ニ基キ殖民地ニ對シテ有スル命令權ヲ更ニ保護領地ノ官吏ニ委任スルヲ得而シテ此委任ハ總督ニ對シテ履行ハレタリ由是觀之本然ノ行政事務及立法ノ範圍ニ於テ總督ノ自由行動ヲ制限スルモノハ僅ニ帝國法律、勅令、帝國宰相及殖民局ノ命令ニ由リテ示定セラレタル範圍限界及中央官廳ガ特定ノ場合ニ於テ總督ノ處分ヲ更正



シ其命令ヲ廢止變更スル權能ノ保留ニ過キサルナリ然ルニ地方行政ノ獻策ヲ容ルベキ範圍ハ頗廣汎ニシテ而モ中央行政ノ發令及修正權ハ無制限ナルガ故ニ地方行政ノ獨立ノ程度ハ一ニ實務ノ結果、實力競争ノ結果、就中地方行政及中央行政當局者ノ個人的實力如何ニ由リテ定マルモノナリ

抑々殖民地地方行政ノ殖民地中央行政ニ對スル隸屬ノ干係ヲ全廢スルガ如キハ取リモ直サズ母國殖民地間國法上ノ隸屬關係ヲ消滅セシムルモノナリ殖民地ノ地方行政ガ母國政府ノ中央部局ニ對シ獨立スルハ殖民地ヲ獨立ノ國家トナシタルモノニシテ只僅ニ主權者ノ一身ヲ同フスル人的聯合ニヨリテ母國ト結合スルニ過キザルモノト云フベシ此ノ如キ進化ノ狀態ハ時トシテ殖民地ノ希望スル所タルベキモ是決シテ母國ノ利益ニ非ザルナリ母國ヨリ觀レハ殖民ハ自主獨立ノ目的ヲ有スルモ

ノニ非ズシテ寧母國ノ政策及經濟政策ノ大目的ニ對スル一ノ方便ニ過キザルモノナリ此見地ヨリスレハ殖民地ノ地方行政ヲ母國政府ニ隸屬セシムル制度ハ絕對ニ之ヲ維持セザルベカラズ然レドモ殖民地ニ與フルニ其固有事務ノ管理上ニ於ケル或行動ノ自由ヲ以テスルハ母國殖民地間ノ聯合ヲ保チ且母國及殖民地双方ノ利益ト調和セザルヤ如何ニ至リテハ自ラ別問題ナリ獨逸保護領地ノ現制ノ如ク殖民地ノ地方行政ヲ擧ケテ母國ノ中央政府ニ隸屬シ爲ニ中央政府ヲシテ地方行政ノ萬端ニ關係スルヲ得セシムル法制ニ對シテハ獨逸殖民政策ノ初期時代ヨリ多數ノ反對者アリテ殖民地ニハ或程度ノ自主權及自治權ヲ與へ或範圍内ニ於テハ母國政府ノ干渉ヲ免レシムベシトノ説起リ啻ニ學問上ノ理由ヲ主張シタルノミナラズ主トシテ最舊、最大ノ殖民國就中英國ノ先例ヲ提出シタルモノアリ



英國ハ十分ナル自由ヲ其大ナル移住の殖民地ノ内部立法及行政上ニ與ヘタルノミナラズ英本國ノ先例ニ倣ヒ人民ノ選舉シタル議會ニ對シテ責任ヲ有シ更ニ進ミテ議會自身ノ執行委員エグゼクティブ・コミッテ會タル政府ヲ認メタル處スラアリ如此母國殖民地間ノ隸屬關係カ弛度スルモ母國ノ人民ト血縁ノ聯絡ヲ有スル殖民地ニ在リテハ決シテ母國ニ對シ全然分離スル結果ヲ生ゼスシテ却テ母國殖民地間ノ聯絡ヲ維持スル要件ト認メラレタリ北米合衆國ノ分立ハ英國ニ對スル歴史的一大訓戒トシテ殖民地ガ其經濟上及財政上ノ發達ノ結果自治ヲ要求スル資格アルモノニ對シテ自治權ヲ拒絕スルハ即反離ノ運動ヲ挑發スルモノナルコトヲ指示シタリ殖民地自治ノ如キ獨乙ニ取リテハ前途遼遠ナル問題ハ姑ク舍クモ或程度ノ自治ヲ認ムルハ殖民地ノ適切ナル政治ヲ容易ナラシメ且母國ノ政府ヲシテ無用ナル行政事務

ノ一大職事ヲ節約セシムルノ利益アルハ毫モ疑ヲ容レズ殖民地ノ地方行政ハ現場ノ事情ニ直接セル結果數多ノ事項ニ付テ殖民地ノ事情及需要ニ應スルニ母國ニ於テスルヨリモ適切且迅速ニスルヲ得ルハ母國中央官廳ガ如何ニ殖民地ノ事情ニ精通スルモ比及シ能ハザル所ナリ其他或程度ノ自治ヲ認メ殖民地自身ニ於テ終局的決定ヲナスヲ得ル事務ノ範圍愈々大ナルニ隨ヒテ諸般ノ地方行政及中央行政ガ報告及監督ノ事務ヲ免ル、ト愈々大ナリ此ハ後段ニ詳論スルガ如ク我獨乙ノ殖民行政就中會計報告及會計監督ニ於テ重大ノ關係ヲ有スル一點ナリ然リ而シテ殖民地ニ或ル自治ヲ與フルハ其何等ノ程度ニ於テスベキヲ論ゼズ必ズヤ一定ノ條件存在スルヲ要シ且一定ノ形式ヲ以テスルヲ要ス殖民的中央行政ガ中央政府ノ權域ヲ



脱シテ地方行政ノ規定ニ委任セラレタル事項ニ對シテ何等ノ責任ヲ負フ能ハザルコトハ初ヨリ明ナリ如此自治ノ範圍ニ屬スル事項ニ對シテハ大不列顛殖民帝國ニ於テハ中央政府ノ本國議會ニ對スル責任ニ代フルニ殖民地々方政府ノ殖民地々方議會ニ對スル責任ヲ以テシタリ

抑殖民地自治ノ問題ハ一大問題ナリ殖民地自治行政ハ總督ト中央政府トノ干係ヲ改正セバ之ヲ達シ得ルモノナリト云フガ如キ見解ハ此點ニ存スル關係ノ何物タルヤヲ知ラザルノ致ス所ナリ母國ノ代人タル總督ハ常ニ其一切ノ行爲ニ就キ本國政府ニ隸屬シ且責任ヲ負ハザルベカラザルモノナリ殖民地ノ自治ガ極端マデ發達シ僅ニ母國殖民地間ノ聯絡ヲ保ツニ過キザル如キ英國ノ大自治的殖民地ニ於テハ總督ハ直接ニ母國政府ノ監督ニ服シ且殖民地ノ母國ニ對スル國法上ノ隸屬ヲ代表ス

ル殖民地唯一ノ官吏ナリ殖民地ノ總督ハ單ニ國王ノ代官タルニ止ラズ母國政府ノ一部タル殖民省ニ隸屬セルモノナリ是加奈太、濠州及「ケーブランド」ノ英國ニ對スル干係ガ單純ナル人的聯合ト異ル要點ノ一ナリ

總督ハ殖民地ニ對スル權利ノ總攬者タルト同時ニ母國ノ權利ノ制限者タル能ハザルガ故ニ殖民地ノ自治ハ母國自其認メタル殖民地ノ權利ニ對シ自己ノ主權ニ一定ノ制限ヲ付スル方法ニ由ルニ非レハ確乎タル基礎ヲ有スル事能ハザルモノナリ是殖民地々方行政組織ナル最重大ナル問題ガ殖民地中央行政及地方行政間ノ關係如何ノ問題ト密接ナル干係ヲ有スル所以ナリ換言スレハ殖民地ニ於テ總督ニ付置スベキ評議會ノ設置ハ單リ殖民地ノ地方行政組織ノ問題ニ非ズシテ又母國殖民地間ノ關係如何ノ問題タルナリ蓋殖民地人民ノ代議會ナル制度



ハ母國及其政府ノ權限ヲ制限スルニ非ザレハ之ヲ設クル事能ハズ何トナレハ少クトモ或事項ニ付テ殖民地ノ自主權及自治權ヲ承認スルト同一ノ結果ヲ生ズレハナリ

由是觀之殖民地ニ於テ議會ヲ設クルノ要件未備ハラザル地方ニテハ亦未中央行政ニ對スル地方行政ノ獨立的位置ヲ法律上確定スベキ條件ヲ備ヘザルモノナルヲ知ルベシ殖民地ノ行政ニ由リテ母國ニ財政上ノ負擔ヲ生ゼザル場合ニアラザレハ母國ヲシテ殖民地ノ地方行政ニ關係スル權利ヲ放棄セシムル事能ハズ殖民地ノ人民ハ殖民地行政ノ經費ヲ負擔スル資力ト意思トヲ有スルニ非ザレハ完全ナル自治ヲ要求スル事能ハズ換言スレハ殖民地ノ財政上ノ獨立ハ殖民地自治ノ第一ノ要件ナリ

是ヲ以テ獨乙ノ保護領地ハ「トーゴ」ヲ除クノ外年々其行政ニ

母國ノ巨額ノ補充金ヲ要スルニ徴シ自治制度ノ施行尙早ト云フベシ「トーゴ」ハ自己ノ資力ニ由リテ其行政ノ經費ヲ支辨スト雖「カメルン」及東部亞弗利加ノ如ク自治制度ノ施行ニハ曾テ總督府評議會ノ設置ヲ論ズルニ當リ説明シタル如キ故障アリ此故障ハ一部ハ白人種其者ニ存シ一部ハ經濟的發達及交通機關ノ現狀ニ存ス

自治ヲ實行シ及有益ナラシムル條件ハ第一着ニ保護領地自然ノ發達ノ然ラシムル所ノモノナリト雖保護領地ヲシテ財政上ノ獨立ヲ容易ナラシメ現行制度ノ範圍内ニ於テ根本的變革ヲ行フコトナク實際或事項ヲ漸次保護領地自身ノ決定ニ委任スルハ又帝國立法權及帝國政府ノ權内ニ屬スルモノナリ

保護領地ガ財政上ノ獨立ヲ得ルハ單リ其財政上ノ資力如何ニ關スルノミニ非ズシテ又實ニ殖民地ノ負擔タルベキ經費ノ如



何ニ關スルモノナリ抑々大國ノ經費ハ殖民地ト何等カノ關係ヲ有スル部分ヲ舉ケテ悉ク殖民地ノ地方豫算ニ計上スル能ハザルヲ明ナリ殊ニ殖民地中央行政ノ經費ハ適切ニ之ヲ各殖民地間ニ分配スルコト難キガ爲ニ何レノ殖民國ニ於テモ之ヲ母國ノ豫算ニ計上シタリシカ母國ニ於テ殖民地中央行政ノ經費ヲ負擔スルハ正當ノ理由アリ蓋殖民地中央行政ハ母國政府ノ一部ニシテ即殖民場裡ニ於テ母國ノ利益ヲ監護シ殖民地ヲ母國ノ政治上及經濟上ノ利益ニ供スル機關ナレハナリ

殖民地中央行政ノ經費ノ外殖民地ヲ領有スルニヨリテ促サレタル幾多ノ經費アリ而シテ是等ノ經費ハ各個ノ殖民地ノ特別ノ利益ニ起因スルモノニ非ズシテ主トシテ又ハ少ク併セテ母國ノ利益ニ歸スルモノナルヲ以テ母國ノ豫算ニ負擔スルノ至當ナルモノアリ殖民地ノ地方豫算ニ計上スル經費ト母國ノ

豫算ニ計上スル經費トノ分界ハ固ヨリ流動的ニシテ各殖民國ノ實際ニ於テモ相一致セズ獨乙ニ於テハ總テノ保護領地ニ於テ存スル經費中該保護領地ノ地方豫算ニ計上セラレズシテ母國ノ豫算ニ負擔スルモノハ帝國郵政ノ經費ニ止マレリ反之佛國ニ於テハ殖民地ニ於テ使用セラル、經費ニシテ同時ニ母國ノ直接ノ利益トナルヘキモノ、大部分ハ之ヲ母國ノ豫算ニ計上セリ例令ヘバ一般ノ學問上及文化上ノ目的ニ出デタル經費時トシテハ築港ノ如キ交通機關ノ改良ニ對スル費用ニシテ佛國ノ國民經濟ノ利益トナルベキモノ其他殖民地軍隊ニ關スル一切ノ經費ハ母國ノ負擔タルガ如シ大不列顛殖民帝國ニ於テモ殖民地ニ駐在スル軍隊ノ經費ノ大部分ハ母國ノ負擔スル所ナリ其理由ハ殖民地軍隊ハ母國全體ノ兵力ノ重要ナル部分ニシテ殖民地ハ國民的領土ノ重要ナル部分ナルヲ以テ之ヲ防禦



シ擴張スルハ即國民的威信及國民的利益ニ關スル事件ナルニ由レリ此見解ハ我獨乙殖民地ノ事情ニモ的中スルモノナリ即殖民地軍隊ガ行政ノ事務ニ使用セラレズシテ專軍事上ノ目的ニ使用セラレ、限リハ母國ノ負擔タルベキヲ當然ナリ例令ハ「カメルン」守備隊ノ「ツアツドゼ」遠征ハ專一般政略上ノ理由ニ出デタルモノニシテ即「カメルン」ノ背面地域ニ於ケル獨乙ノ勢力範圍ニ對スル帝國ノ要求ヲ確保スルガ爲メニ行ハレタルモノナリ而シテ此遠征ニ付テハ「カメルン」ノ海岸ニ住スル栽培業者及商人ノ直接ノ利益ハ或獨乙聯邦國ノ住民ガ此遠征ニ付キ有スル利益ト毫モ異ナル所アラズ是ヲ以テ專帝國全躰ノ利益ノ爲メニ決行セラレタル遠征ノ費用ヲ「カメルン」殖民地ノ住民ニ負擔セシムル理由アラザルナリ

獨乙保護領地ノ地方豫算ガ少ク且軍事費ノ大部分ヲ免ル、如

ク通常地方豫算ニ計上セラレ、或他ノ重要ナル經費モ其性質上母國ノ豫算ニ計上セラレ、トヲ要スルモノアリ就中帝國カ千八百九十年十一月二十日千九百二年十一月十五日ノ契約ニ基キ獨領東部亞弗利加會社ニ對シ帝國ニ讓與シタル主權及會社ガ千八百九十年ザンジバール王ニ對シ東部亞弗利加沿岸ノ割讓ノ補償トシテ支拂タル四百萬馬克ノ補償トシテ千九百三十五年迄給付スヘキ年賦六十萬馬克及帝國ガ千八百九十八年十月七日ノ契約ニ基キ主權讓與ノ報酬トシテ「ノイギチヤ」會社ニ對シ千九百八年マデ給付スベキ四十萬馬克ノ年賦ノ如キ帝國ノ利益ノ爲ニ是等ノ殖民地ヲ獲得シタル經費ヲ是等殖民地地方豫算ニ負擔セシメタルモノナリ且「カロリン」「パーラウ」マリヤ「ネン」ノ豫算ニモ是等諸島ノ爲ニ西班牙ニ交付シタル補償金ノ利足ヲ計上セザリシナリ保護領地ノ地方豫算及中央政府



ノ豫算ニ分擔セシムベキ經費ノ適切ナル區分ノ標準ハ地方豫算ト自治ノ思想トヲ關聯セシムル時ニ於テ自ラ生スルモノナリ母國ノ利益ニ歸スベキ經費ニ付テハ決シテ各殖民地自治機關ノ掌中ニ裁決權ヲ委任スルヲナカルベシ總テ此種ノ經費ハ(軍事費ノ如キモノハ其最タルモノナリ)當然母國ノ豫算ニ計上セラルベキモノナリ

母國殖民地間ニ經費ノ適切ナル分配ヲ行ヒ以テ殖民地ノ財政上ノ獨立及自治行政ノ準備ヲ爲サントスルニ當リ殖民地ノ財政上ノ獨立ノ判斷ニ重要ナル關係ヲ有スルモノハ即殖民地々々方豫算ニ計上セラレタル支出ヲ經常費ト臨時費トニ區別スルヲ是レナリ世人ハ如何ナル舊來ノ文明國ニ對シテモ生産ノ目的ニ使用セラル、臨時費ヲ經常收入ニヨリテ支辨スベシト要求スルモノアラザルベシ此ノ如キ臨時ノ支出ニ對シテハ多ク

公債募集ニヨリ填補ノ方法ヲ講スベシ然ルニ殖民地ニ於テハ先ヅ大資本ヲ投シテ以テ之ヲ開發セザルベカラザルガ故ニ生産的目的就中交通機關ノ設備ニ關スル臨時費ハ性質上經常支出ニ對シテ特ニ莫大ノ額ニ達スベシ此ノ如キ臨時費ヲ經常收入ニヨリテ支辨スルカ如キハ之ヲ殖民地ニ望ムコト舊來ノ文明國ニ望ムヨリモ更ニ難シ是ヲ以テ殖民地ノ財政上ノ獨立ハ殖民地ガ其一切ノ經常費及臨時費ヲ自己ノ經常收入ニヨリテ支辨スルコトヲ得ルヲ待チテ始メテ之ヲ認容スヘキ性質ノモノニアラズ臨時費ヲ支辨スルニハ舊來ノ文明國ニ於テ生産的支出ノ通常ノ支辨方法タル公債募集ノ外母國ノ補充金ヲ仰カザル可カラズ而シテ母國ノ補充金ハ母國ニ於ケル其他ノ總經費ト同一ノ方法ニヨリ即母國ノ豫算ニ由リテ之ヲ承諾スベキモノナリ



其外殖民地ニシテ未タ鞏固ナル信用ヲ有セサルモノ、募債ハ之ニ高利ノ多大ナル犠牲ヲ供セザラントセハ母國ノ保證ヲ受クルノ外ナシ而シテ母國ノ擔保ハ立法議會ノ承諾ヲ要スベシ假令或場合ニ於テ母國ノ保證ヲ求ムルコトナク之ニ代フルニ殖民地ノ或ル收入ノ抵當ヲ以テスルコトアリトスルモ殖民地ガ過度ノ募債ニ由リテ再母國ノ負擔トナルコトアルガ爲ニ母國ノ財政ガ痛痒ヲ感スルコトアルベキノ點ニ於テ母國ハ殖民地ノ募債ニ利害關係ヲ有スルモノナリ是ヲ以テ母國ハ殖民地ガ確實ナル信用ヲ有セザル限りハ殖民地ノ募債ニ干涉スル權能ヲ留保セザルベカラズ反之其經常支出ヲ其經常收入ニ由リテ支辨スルコトヲ得ル殖民地ニ於テ殖民地々方豫算ノ決定ニ對スル母國立法權ノ干涉ヲ公債募集ノ認可及或ル臨時費ニ對スル補充金ノ承諾ニ制限シ其他ハ殖民地ニ其收入ノ用途ニ就キ或自主權

ヲ與フルハ何等不都合ノアルアラザルナリ英國ノ王領殖民地及佛國ノ殖民地ニ於テ大體實行セラレタル此方法ニ由リテ一面ニ於テハ少クトモ其經常支出ヲ自己ノ收入ニ由リテ支辨スルコトヲ得ル保護領地ニハ殖民地自身ノ行政ニ關スル或程度ノ獨立ヲ與フルコトヲ得ベク他ノ一面ニ於テハ補充金保證又ハ間接ニ募債ニヨリテ該保護領地ノ財政ニ利害關係ヲ有スル帝國ハ保護領地ノ財政ニ對シ必要ナル勢力ヲ留保スルコトヲ得

ベシ  
如此獨乙ノ殖民地豫算制度ヲ實行スルニハ千八百九十二年三月三十日ノ法律タル殖民地財政法ノ改正ヲ要スベシ蓋該法律ニヨレバ保護領地ノ總テノ收入及支出ハ保護領地ノ豫算ニ計上スベク且此豫算ハ帝國法律ヲ以テ確定スルコトヲ要スレバナリ此法律ハ今日又ハ將來其凡テノ支辨スル資力ヲ有スル殖民



地ニモ獨立ノ財政及自治ヲ得ベキノ餘地ナカラシムルモノナ  
 リ  
 殖民地豫算ノ制定方及保護領地豫算法ニ關スル立法制度ニ付  
 キ前述シタル如キ變革ヲ行ヒ殖民地自身ノ經濟上及財政上ノ  
 資力ノ發達ニヨリテ殖民地ニ於ケル自治制度ノ要件ヲ完備ス  
 ルニ至ル迄ハ殖民地地方行政ト中央行政トノ現行ノ關係ハ根  
 本的ノ變更ヲ行フ能ハズ  
 然レモ曾テ説明シタル如ク中央官廳ハ凡テノ殖民行政ニ對シ  
 絶對的責任ヲ負擔シ地方行政ハ中央行政ニ全然隸屬スル現行  
 制度ノ範圍内ニ於テ各殖民地地方行政ノ事實上獨立スル有様  
 ハ殖民地ニ由リテ頗ル其程度ヲ異ニス現行制度ノ範圍内ニ於  
 テ如何ナル程度マデ總督府ノ事實上ノ獨立ヲ發達シ得ベキカ  
 ハ一ハ中央官廳ガ地方行政ノ或事項ニ對スル干涉ヲ如何ナル

程度マデ自ラ抑制スル意思アルカニ關シ一ハ殖民地地方行政  
 カ其事務擔當上ニ於テ如何ナル程度ノ威信ヲ發揮シ得ルカニ  
 存スルモノナリ此二者ハ或程度マデ互ニ關聯スルモノニシテ  
 中央行政ハ原則上責任ヲ負擔スルモノナルモ地方行政事務ノ  
 適切ニ處理セラル、トニ付キ個人的及物質的保證愈存スルニ  
 隨ヒ將殖民地ノ經濟上及財政上ノ發達ノ程度ガ自治ノ要求ヲ  
 愈至當ナリト認メシムルニ隨ヒテ愈地方行政ニ對スル干涉權  
 ナ拋棄スルヲ得ベキナリ由是觀之現行制度ハ保護領地ノ經  
 濟上及財政上ノ實力ノ發達スルニ隨ヒ法律上自治制度ヲ施行  
 スルニ先タチ事實上ノ自治ニ近ヅカシムル事ヲ許スモノナリ  
 總督府評議會ハ其代表スル經濟上ノ利益ノ增長ト殖民地ノ財  
 政上ノ實力トニ件ヒテ其威信ヲ增長セザルベカラザルモノニ  
 シテ自治ニ接近スル有力ノ道具ト認ムベキモノナリ



保護領地ノ行政ニ關スル現行法律ノ規定ハ漸次擴張スベキ幾多ノ事項ヲ保護領地ノ獨立處分ニ放任スルノ故障トナラザルモ或重要ナル點ニ於テ不都合ナキニアラズ即保護領地行政ノ總テノ決算ハ獨逸帝國ノ會計検査院ニ於テ審査スベキ法律上ノ規定アルト是レナリ保護領地ノ所在地ト遠隔シ且其地方ノ事情ニ通ゼザル官廳ニ於テ會計ヲ審査シ而モ全然歐洲ノ事情ニ着服シテ殖民地ノ事情ヲ打算セザル原則ニ從ヒテ會計ヲ審査スルハ殖民地ノ發達及殖民地行政事務ノ増加ト共ニ保護領地及本國ノ官廳ヲシテ益々繁雜ニシテ將ニ堪フベカラザラントスルノ負擔ヲ生ゼシムルモノナリ他ノ點ハ暫措クモ此行政事務ニ付テハ保護領地ノ地方官廳ヲシテ事務ヲ終局的ニ處理セシムルニ付キ廣汎ナル權限ヲ授與スルノ緊要ナルヲ認メザルヲ得ズ英國及佛蘭西ノ殖民地ニ於テ會計ノ報告ヲ受ケ及之ヲ

審査スルニハ殖民地所在ノ官廳ヲシテ其ノ任ニ當ラシメタリ獨乙ノ保護領地ニ於テハ少クモ官有物管理及土人租税ニ關スル會計ノ結果ハ保護領地ニ於テ之ヲ行ハシメ其他ノ會計ニ付テハ會計検査院ノ權限ヲ覆審ニ制限セザルベカラズ殖民地自治ノ準備トシテ現時採ルヘキ措置ハ殖民地ノ豫算ヨリ帝國ノ豫算ニ引受クヘキ經費ヲ殖民地ニ免除シ殖民地豫算ノ制定及會計報告會計検査ニ關スル法律上ノ規定ヲ改正スルニ止マラザルヲ得ズ總テ其他ノ點ニ付テハ保護領地ノ經濟上及財政上ノ發達其物ガ殖民地自治ノ實行ニ必要ナル條件ヲ準備セザルベカラザルナリ



第四章 軍事組織及其民政トノ關係

中央官廳ノ組織ハ總テノ近世國家ニ於テ原則上事項ニ由リテ區分セラレタリ(外務、內務、財務、司法、宗教及教育、農業、工業及商業、公共土木、通信事業、陸海軍)之カ唯一ノ例外ハ即殖民地ニ關スル中央官廳ニシテ原則上殖民地ノ地域ニ屬スル一切ノ事件ヲ網羅シ且一種特別ノ國家行政ヲ成立セシムルモノナリ此例外ノ由リテ生ズル所以ハ殖民地ノ事情ハ本國ノ事情ト異ルガ爲ニ殖民行政ノ各個ノ事項ヲ本國行政ノ當該部局ニ分掌セシムルノ不可能ナルト殖民行政ノ總テノ事項ハ之ヲ統一シタル指揮ノ下ニ併合スルノ絶對的必要ナルトニ在リ各殖民國ヲ通シ凡テ殖民地ニ關スル事務ハ之ヲ一個ノ獨立官廳ニ統轄スルノ適切ナルコトヲ絶對的ニ承認シ且之ヲ賞行シタルモ是亦一ノ例

外ヲ設ケラレタリ即殖民地ノ兵力ニ關スル事務是ナリ總テノ殖民國ニ於テ軍制ハ他ノ一切行政ト任務ヲ異ニスルノ結果殖民地軍隊ハ他ノ民政ノ如クニ當然殖民行政ノ編制中ニ屬スベキモノト認メラレザリシナリ何レノ國ニ於テモ殖民地兵力ハ全部若ハ一部分未來ノ殖民行政ノ編制外ニ置キ或ハ之ニ獨立ノ編制ヲ與ヘ或ハ母國兵制ノ一部分ヲラシメタリ此ノ如キ殖民地兵制ノ組織ハ特別ノ殖民軍隊ナルモノアル國ト雖モ結局必要ノ場合ニハ母國ノ陸海兵力全部ヲ以テ殖民地ノ保護及防禦ニ充用スルコトアルガ爲ニ自ラ然ラザルヲ得ザルナリ

獨逸ニ於テハ殖民地ノ軍事上ノ保護ハ母國ノ兵力即第一着ニ母國ノ海軍ニ由リテ行ハルベキモノナリトノ原則ヲ採用シタリ而シテ帝國憲法及其他ノ帝國法律ニ反對ノ規定ナキガ故ニ



皇帝ハ大元帥トシテ軍艦及海兵ヲ派遣スルコトヲ得ルハ勿論  
 殖民地保護ノ爲ニ其統帥ノ下ニアル陸兵ノ一部分ヲ使用スル  
 權能ヲ有スルハ敢テ疑ヲ容レズ但通例海外ニ使用スル軍隊ハ  
 志願シタル士官及兵士ヨリ之ヲ編制スルナルベシ  
 然レドモ殖民地ノ保護ハ第一次ニ於テ殖民地ニ駐在スル軍隊  
 ノ任務ナリ殖民地ニ駐在スル軍隊中膠州灣ノ守備隊ノミガ母  
 國兵力ノ編制内ニ屬シタリ即守備隊ハ海軍歩兵大隊海軍砲兵  
 分隊及其他ノ總督府軍人ヨリ編制セラル、モノナリ膠州灣ノ  
 守備隊ハ海軍大臣ニ隸屬シ同時ニ膠州灣ノ總テノ行政ハ海軍  
 大臣ノ管轄スル所ナリ中央行政ノ首長トシテ總督ノ名稱ヲ有  
 スル海軍士官アリ總督ハ膠州灣ニ於ケル守備隊ノ司令長官ニ  
 シテ且總テノ軍人軍屬及民政官ノ長官ナリ民政軍司令及軍事  
 行政ハ膠州灣ニ於テハ一人ノ總攬スル所ナリ

凡テ其他ノ保護領地中東部阿弗利加、カメルン及南西阿弗利加  
 ハ守備隊ナル特別ノ軍事編制ヲ有シト「ゴ」及南洋保護領地  
 ニ於テハ公共ノ秩序ヲ維持スルガ爲ニ警察隊ヲ編制シ行政官  
 廳ニ隸屬シタリ此ノ如キ警察隊ハ前記ノ保護領地ニ於テモ守  
 備隊ト共ニ存在ス守備隊ハ帝國ノ陸軍トモ帝國ノ海軍トモ分  
 離シタル一種特別ノ部隊ニシテ帝國ノ陸海軍トハ僅ニ皇帝ノ  
 大元帥ヲ共通スルニ過キザルナリ守備隊ハ帝國陸軍及海軍ノ  
 士官、軍技師、衛生士官、軍屬及下士ニシテ志願ニ由リ一時守備隊  
 ニ編入セラレタルモノヨリ編制セラレ其外南西阿弗利加ノ守  
 備隊ハ帝國陸軍及海軍ノ兵士ヲモ加入シタルモノナリ然レド  
 モ守備隊ニ編入セラレタル軍人軍屬ハ帝國陸海軍ヲ脱シタル  
 モノトス但彼等ハ職務ニ堪フルヲ條件トシテ勤續年數ヲ繼續  
 シ帝國陸海軍ニ復舊スルコトヲ得



守備隊ノ最初ノ編制ハ千八百九十一年四月九日東部阿弗利加守備隊ノ編制規程ニ定メタル如ク軍事上ノ編制及規律ニ關シテハ帝國宰相(海軍省)ニ隸屬シ其行政及用途(軍事上ノ事業ニ供スルト民政ノ目的ニ供スルト)ヲ區別セズニ付テハ東部阿弗利加ノ總督及帝國宰相(外務省殖民局)ニ隸屬セシメタリ守備隊ノ編制ニ様ニ涉リ其行動ノ一部分ニ付テハ總督懲戒權ヲ有セザル(ニ隸屬シ他ノ部分ニ付テハ直接ニ海軍省ニ隸屬シタル制度)ハ守備隊ヲ指揮スル二個ノ權力間ニ權限ノ爭議及軋轢ヲ生ゼザルヲ得ザリキ殊ニ當時ハ守備隊ヲ民政ノ目的ニ使用スルコトノ絶對的ニ必要ナリシ時代ナリシナリ又、ベチルクスハウプトロイター(民政ヲ掌理シタル守備隊長)ニ任ゼラレタル士官ハ官制上ベチルクスハウプトロイタータル資格ニ於テノ三總督ニ隸屬シ軍事上ノ關係ニ於テハ司令官ニ隸屬シタリ只其報告

ハ軍事上ノ事務ニ關シテハ總督ヲ經由シテ司令官ニ提出セラレタルノミ  
此ノ如キ狀態ヨリ不都合發生シタルヲ以テ東部阿弗利加ノ總督ハ守備隊設置後間モナク千八百九十一年十一月二十一日及千八百九十二年二月一日ノ總督府令ヲ以テ守備隊ヲ本來ノ守備隊ト警察隊トニ分割スルニ至リタリ此總督府令ニヨレハ重要ナル地點ニ於テベチルクスハウプトロイタートシテ任命セラレタル守備隊士官及之ニ付屬シタル下士官ハ專ラ區役所(ベチルクスアムト)ノ事務ヲ擔當セシムルガ爲メ總督府ニ勤務ヲ命セラレ此等ノモノハ民政官ノ職務ヲ擔當スルガ爲ニ派遣セラレタル軍人ノ辭令ヲ受ケ規律ノ關係ニ於テモ守備隊ノ軍令權ノ範圍外ニ屬スルモノト認メラレタリ各區役所ニハ一部隊ノ警察兵士ヲ置キ守備隊ノ兵士中ヨリ之ヲ採用シ其行政給與



給養及懲戒權ニ關シテハ總督ニ隸屬セシメラレタリ  
 前述ノ方法ハ嚴格ニ論ズレハ守備隊ニ關スル官制上ノ規定ト  
 一致セザルモノナルガ總督ハ之ニ由リテ以テ少クトモ民政ニ  
 使用スル軍隊ノ一部分ニ付キ絶對的ニ必要ナル指揮權ノ統一  
 ナ圖リタリ

其外最初ノ官制ニ由リテ生シタル不都合ノ爲ニ千八百九十五  
 年東部阿弗利加守備隊ノ外更ニ「カメルン」及南西阿弗利加ノ守  
 備隊ヲ設クルニ及ヒテ守備隊ノ新編制ヲ行ヒタリ

千八百九十六年七月十六日ノ勅令ハ次ノ規定ヲナシタリ  
 曰ク阿弗利加保護領地ニ於テ使用スル守備隊ハ帝國宰相ニ隸  
 屬スルモノトス守備隊ハ次ニ當該總督次ニ司令官ニ隸屬ス守  
 備隊ノ總督ニ隸屬スル關係ガ總督ノ代理官ニ迄及ブヤ將タ如  
 何ナル程度ニ迄及ブヤハ帝國宰相之ヲ規定スト、同時ニ帝國宰

相ハ守備隊ノ新編制ニ關スル規則ヲ發スル委任ヲ受ケタリ此  
 勅令ニ付帶シテ千八百九十六年八月二十日ノ勅令ハ守備隊ノ  
 凡テノ事務ヲ外務省殖民局ノ管轄ニ屬セシムル旨ヲ規定シタ  
 リ守備隊ノ行政ヲ管轄スル殖民局ト共ニ其軍令ニ關シ守備隊  
 高等司令部ナル特別ノ官廳ヲ設置シタリ帝國宰相ガ勅裁ヲ經  
 タル後千八百九十九年七月二十五日ニ發シタル守備隊ニ關ス  
 ル官制ニ據レバ帝國宰相ハ士官衛生士官及軍屬ノ職員ト共ニ  
 守備隊ノ高等司令部ヲ構成シ此高等司令部ハ陸軍ノ高等司令  
 部ニ對スル規定ニ準シテ守備隊ノ特種ノ事情ヲ斟酌シ其事務  
 ナ處理スルモノトス  
 守備隊ヲ帝國宰相ニ隸屬セシメタル千八百九十六年七月十六  
 日ノ勅令ニ嗣イテ千八百九十七年八月十八日千八百九十八年  
 八月五日及千九百年七月十八日ノ勅令ハ殖民局長ヲ以テ守備



隊ノ軍令事務ニ關スル帝國宰相ノ代理ト定メタリ  
 守備隊ノ最高指揮權ニ關スル此制度ハ今尙行政事務ト軍令ト  
 ノ分離ヲ存セシムルモ軍令ガ從來ノ如ク第三ノ部局(海軍省)ニ  
 屬セズシテ直チニ帝國宰相及其代理タル殖民局長ニ屬シタル  
 ナリテ帝國宰相直接責任ノ下ニ守備隊其物ノ行政事務ヲ管理  
 スル殖民局長ガ軍令ヲ管掌スルニ由リテ指揮權ノ統一ヲ圖ルコ  
 トヲ得タリ此聯合制度ハ軍隊ノ行政事務ト軍令トヲ統一的一ニ  
 併合シタルニ止ラズ同時ニ獨逸殖民地ノ統一的指揮權ノ下ニ  
 アル行政體統中相對立シタル二ケノ分子トシテ殖民地民政ト  
 殖民軍隊トノ合併ヲ意味シタルモノナリ  
 中央政府ニ於ケル此統一ハ各保護領地内ノ地方組織ニモ反射  
 シタリ  
 千八百九十六年七月十六日ノ勅令ニ由リテ守備隊ヲ領屬セシ

總督ノ權限ハ千八百九十八年七月二十五日ノ官制ニ於テ次ノ  
 如ク規定セラレタリ  
 曰ク總督ハ保護領地ニ於ケル軍事上最高權力ヲ有ス總督ハ自  
 己ノ意見ヲ以テ守備隊ノ全部若クハ一部ヲ軍事ニ使用スルコ  
 トヲ得ト  
 此ノ如ク純然タル軍事ニ關シテモ守備隊ヲ總督ニ隸屬セシメ  
 タル結果ハ爾今軍隊ノ所屬員ニ對スル懲戒權ガ總督ニ歸セル  
 ナ致セリ  
 其他ノ結果ハ總督以上ノ裁決ヲ要スル凡テノ事件ハ總督ヲ經  
 由シテノミ且總督ノ意見ニ由リテノミ守備隊高等司令部ノ中  
 央廳ニ達スルヲ得ルコト、ナレルニ在リ  
 反之軍事的勤務ヲ全ウスルガ爲ニ總督ト守備隊トノ關係ニ付  
 キ幾多ノ規定ヲ設ケ守備隊ハ原則上總督ニ隸屬スルニ拘ラズ



軍事的編制ノ團結性インテグリティ及守備隊司令官ノ或程度ノ獨立責任ヲ維持シタリ殊ニ官制ニ據レバ總督ハ司令官ニ向ヒテ守備隊ニ對スル指令ヲ發シ例外トシテ直接ニ命令ヲ或人若ハ或支部隊ニ發シタルトキハ其旨直チニ司令官ニ報告ヲ行フモノトス其外總督ハ最高行政長官ト其區域内ノ守備隊ノ一部トノ關係ヲ規定スル權限ヲ有スルモ凡テ軍事上ノ指令ハ守備隊ノ指揮官ノ責任ヲ負ヒテ之ヲ發スルコトヲ得ルモノトセリ司令官ハ守備隊ノ戰鬥力規律、訓練、勤務及行政ニ付キ責任ヲ有ス此司令官ノ責任ハ其總督ニ隸屬スル結果總督ノ命令ニ服從スベキ義務ト時ニ衝突スルコトアリ此ノ如キ場合ヲ豫想シテ次ノ如キ規定ヲ設ケタリ

日ク司令官ハ總督ノ命令ニ對シ軍事上ノ關係ニ於テ疑義ヲ有スルトキハ司令官ハ之ヲ總督ニ申告スル義務アリ總督ガ其命

令ヲ固守スルトキハ司令官ハ之ヲ施行スベシ但總督ニ告知シタル後守備隊高等司令部ニ上申スルコトヲ得守備隊高等司令部ハ裁決ヲ下シ之ニ對シテ總督及司令官ハ皇帝陛下ニ上奏スルコトヲ得ト守備隊ハ此ノ如ク司令官ノ中介ニ由リテノ總督ニ隸屬スル團體ナルガ故ニ民政ノ目的ニ使用セララル、守備隊員ト民政官廳トノ關係ヲ規定スルノ必要ヲ生シタリ

千八百九十八年七月二十五日ノ官制ハ總督ハ民政ノ目的ノ爲ニ軍事上ノ故障存セザル限ニ於テ守備隊ノ一部ヲ使用スル權能ヲ認メラレタリ此權限ハ今日マデ三保護領地ニ於テ少カラズ行使セラレタリ守備隊員ト民政トノ關係ハ次ノ官制上ノ規定ニ由リテ定メラレタリ

日ク守備隊所屬員ニシテ民政ノ目的ニ使用セララル限ハ此目的ニ付キ當該民政首長ノ指揮ニ從フモノトス守備隊所屬員ハ



軍事上ノ關係ニ於テハ軍事上ノ上官ニ隸屬シ上官ノ必要ニ應シ且其位置ニ應シテ下士ヲ監視員トシテ使用スルヲ得ト民政ニ使用セラレタル守備隊所屬員ニ關シテハ今日ト雖總督以下ニ存在スル軍隊ト民政トノ分離ヲ見ルベシ守備隊所屬員ハ一方ニハ民政官廳ニ隸屬シ他方ニハ軍事上ノ上官ニ服従ス然レドモ現行制度ニ於テハ或ル權限爭議起ルコトアルモ民政ト守備隊トノ共同ノ長官タル總督ニ由リテ調停セラルベシ從前ノ組織ニヨレバ一方ニハ總督及外務省殖民局ヲ經由シ他方ニハ司令官及海軍省ヲ經由シテ帝國宰相ノ裁決ヲ求メザルベカラザリシナリ

大體守備隊ノ現行制度ハ通常ノ場合ニハ其宜ヲ得タルモノナリ然ルニ南西阿弗利加ノ事變ハ軍隊ガ單リ平穩ナル時代ニ良好ノ運轉ヲナスヲ以テ足レリトセズ非常事變ニ際シ其活動力

ヲ發揮セザルベカラザルモノナルコトヲ戒告シタリ南西阿弗利加ノ民亂作ルニ及ンデ殖民地兵力ノ組織ニ關スル問題更ニ勃興シタリ

南西阿弗利加ノ守備隊ガ亂民ヲ鎮定スルニ當リ其幾倍ノ増援ヲ帝國陸軍ノ士官及兵士ニ仰カザルベカラザリシ事情アリシヲ以テ守備隊ハ永久帝國陸軍又ハ海軍ノ兩兵力中ノ何レニカ之ヲ編成スルノ得策ニ非ルヤ又ハ本國ニ於テ殖民地ノ目的ノ爲ニ養成シ何時ニテモ派遣スルコトヲ得ル軍隊ヲ編成シ用意スルノ得策ナルヤ否ヤノ問題ヲ生シタリ此何レノ方法ヲ執ルモ又ハ此二法ヲ併用スルモ一朝殖民地守備隊ノ増援ヲ行フ必要ヲ生シタル場合ニハ已成ノ軍隊ヲ直チニ使用シ得ル利益アリ然ルニ現行制度ニ於テハ志願シタル士官及兵士ヨリ新規ニ團體ヲ編成シ新規ニ武裝シ且目前ニ切迫シタル任務ノ特種ノ



性質ニ應ゼシムルガ爲ニ辛ウシテ訓練ヲ行フ等ノ事情アルヲ以テ増援兵ノ派遣遲延シ其戰鬪力削減セラル、ノ弊アリ守備隊ヲ帝國陸軍又ハ海軍ニ編入スルモ若同時ニ殖民地ニ駐在スル守備隊ノ外帝國陸海軍中ニ特別ノ殖民軍隊ヲ編制スルニ非レバ前述ノ困難ハ之ヲ排除スルコト能ハズ今日ト雖帝國ノ陸軍若ハ海軍ノ或部隊ヲ派遣スルニ付キ法律上ノ故障アルニ非ズ南西阿弗利加守備隊ノ増援軍編制ノ際志願者ヲ採用スルニ至リタル所以ノ困難ハ例令守備隊ヲ陸軍省若ハ海軍省ニ隸屬セシムルモ是ニ由リテ之ヲ避クルコトヲ得ザルナリ殊ニ帝國ノ守備隊ヲ普國ノ陸軍省ニ隸屬セシムルハ或國法上ノ困難アリ

反之平常ハ母國ニ駐在セシムルモ何時ニテモ保護領地及他ノ海外地方ニ使用スルコトヲ得ベキ特別ノ殖民軍隊ノ編制ハ守

備隊ヲ帝國陸軍又ハ海軍ニ編入スルコトヲクシテ之ヲ實行スルコトヲ得ベシ母國ニ駐在スル殖民軍隊ハ或ハ之ヲ殖民地ノ守備隊ト統一の獨立ノ編制ヲナサシムルコトヲ得ベク或ハ帝國陸海軍ノ團體ニ編制シ以テ殖民行政ノ統一上必要ナル殖民地守備隊ノ特殊ノ位地ヲ維持スルコトヲ得ベシ本問ノ解決ニ付テハ今日已ニ海軍歩兵制度アルヲ以テ立案ノ根據アリト云フベシ

要之此困難ナル問題ヲ決定スルニ當リテハ士官下士官ノ外兵士ニ至ルマデ白人ヨリ編制セラレタル軍隊ハ凡テノ獨領阿弗利加殖民地中獨南西阿弗利加ニ於テノミ使用スルコトヲ得ベキ事情ヲ斟酌セザルベカラズ凡テ其他ノ阿弗利加保護領地ニ於ケル白人軍隊ハ季候上ノ理由ニ由リ僅ニ海岸付近ノ地域ニ於テ軍艦ノ陸戰隊ヲ時々使用スルコトヲ得ルニ過キズノイキ



ネヤ」ニ付テモ亦同ジ其他南洋殖民地ニ於テモ秩序ハ充分軍艦ノ乗組員ニ由リテ維持スルコトヲ得由是觀之帝國陸軍又ハ海軍ノ一部トシテ本國ニ駐在スル殖民軍隊ハ全ク南西阿弗利加ノ豫備隊ヲ成スモノト云フベシ南西阿弗利加ノ民亂ハ必豫見シ得ベキ時期ニ向ヒ再發ヲ杜絶スベキ程度ニ於テ之ヲ鎮壓セシコト疑ヲ容レズ是ヲ以テ南西阿弗利加ニ付テハ本役終結後ハ母國ノ兵力ヲ再要スルガ如キコトナキニ至ルヘシ然リ而シテ歐洲軍隊ノ干涉ヲ爲スニ適スル此唯一ノ殖民地(南西阿弗利加)ノ軍事上ノ保護ニ付テハ軍隊ノ編制ヲ變更スルヨリモ寧保護領地ノ守備隊ヲシテ其任務ヲ全ウスルニ必要ナル人數ト實力トヲ増加シ且危險ナル方面ニ兵力ノ迅速ナル輸送ヲナスコトヲ得セシムル交通ノ關係ヲ整頓スルニ如クハナシ」編制ノ變更ニヨリテ期待シ得ベキ利益ノ有制限的ナルト不確

實ナルトニ鑑ミ寧殖民地中央行政ノ統一及殖民地ニ於ケル政權ノ統一ヲ維持スルニ重キヲ措クノ必要アリ守備隊ヲ帝國宰相及總督ニ隸屬セシメ以テ民政ト軍事の權力トノ統一ヲ維持スル現在ノ殖民地軍隊組織ハ畢竟曩ニ軍令ニ關シ守備隊ヲ海軍省ニ隸屬セシメタルトキノ經驗ニ胚胎シタルモノナリ其他ノ殖民國ノ經驗ニ於テモ殖民地軍隊ノ編制ハ母國ノ統治權及公共ノ安全ガ未寸毫ノ疑ナキ程度マデ確立セザル新殖民地ニ於テ權力ノ統一ヲ圖ルヲ以テ第一ノ眼目トシタルコトヲ教示シタリ

大不列顛殖民帝國ニ於テ最重要ナル殖民地及餘ノ多數ノ殖民地ニ係ル軍事上ノ保護ハ英國艦隊ニ由レル一般ノ保護ノ外地方的軍隊ニ由リテ行ハレ此軍隊ハ全然該殖民地ノ行政ニ隸屬シタリ尤殖民地守備隊ノ一部分ガ母國現役兵ノ一部隊ヨリ編



制セラレ且本來ノ殖民地軍隊ノ一部分ニシテ陸軍省ニ隸屬シタルモノアリト雖英國ノ統治權ヲ擴張シ鞏固ナラシムルガ爲ニ守備隊ハ今尙大ヒニ活動スル地方ニ於テ(是レ地理上及政治上ノ關係ニ於テ我阿弗利加保護領地ト最多ク接觸スル所ナリ)通例殖民地行政ヲ管掌スル中央官廳ニ隸屬セリ例令ヘバ英國ガ東阿弗利加及中央阿弗利加ノ保護領地ニ有スル著シキ兵力ハ(約一萬二千 Kings African Rifles) 該保護領地ノ行政ノ中央官廳タル外務省ニ隸屬シ最近代(千九百三年)ニ於テ英國ノ總テノ南阿弗利加殖民地(ガンビヤ「シーラー、レオチー」「ゴールド、ゴースト」「ラゴス」、北部及南部ニゲリヤ)ノ兵力トシテ West African Frontier Forceナル統一的軍隊ヲ編制スルニ七大隊及一中隊ノ歩兵七砲隊一中隊ノ工兵ヲ以テシ此兵力ハ監軍ノ下ニアリテ該殖民地行政ノ中央廳タル殖民省ニ隸屬セシメラレタルガ如シ

佛國ニ於テ殖民地中央行政ガ海軍省ノ一部タリシ間ハ殖民地守備隊ハ海軍省ニ隸屬シタルガ故ニ民政及軍政ノ統一ヲ保ツコトヲ得タリ

千八百八十九年殖民行政ガ商務省ニ移リ千八百九十四年獨立ノ殖民省設立セラレ、ニ及ヒテ殖民地軍隊ハ暫ク海軍省ニ隸屬セシメラレタルモ海軍大臣ガ此次ノ權力分裂ニ由リテ殖民地防禦ノ責任ヲ負フテ肯ンゼザルニ迫ヒ絡ニ千八百九十年二月三日ノ布告ニヨリテ總督ハ殖民地ノ中央行政ノ直接指揮ノ下ニ殖民地ノ内外ノ防禦ニ付キ責任ヲ有スルコト、ナレリ此主義ハ千九百年七月七日ノ法律ヲ以テ殖民地守備隊ノ新編制ヲ行ヒ且新設セラレタル殖民軍隊ヲ陸軍省ニ隸屬セシメタル際ニモ維持セラレタリ此殖民軍隊ハ二部ニ分レ其中一ハ佛國軍團ト同一ノ編制ヲ有シ他ノ一ハ一部分土人聯隊ヨリ構成セ



ラレタルモノニシテ殖民地ニ駐在スルモノナリ佛國ニ駐在スル殖民軍隊ノ豫算ハ陸軍省豫算ノ一部ヲ成シ殖民地(アルゼリ「チユニス」ヲ除クノ外)ニ駐在スル軍隊ノ豫算ハ殖民省ノ豫算ヲナスモノナリ陸軍省ノ特別ノ局ハ殖民軍隊全部ニ付キ人事教育及軍令ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理スルモ該局ハ陸軍省ノ豫算ニ屬スル即佛國ニ駐在スル殖民軍隊ニ限リ其行政及其使用ニ關スル事務ヲ掌理ス殖民地ニ於テ政權統一ノ必要(是總督ガ其行政ニ委任セラレタル殖民地ノ防禦ニ付キ責任ヲ負フニ至リタル所以ナリ)ハ殖民地ニ駐在スル軍隊ノ司令官ヲ總督ニ隸屬セシメ司令官ハ軍事的動作ノ準備及執行其他殖民地ノ防禦ニ關スル一切ノ事項ニ付キ總督ニ對シ責任ヲ有スルニ至リタリ千九百一十一年十一月九日ノ布告ニ據レバ軍事的動作ハ攻撃ヲ退クルニ緊急ナル場合ノ外總督ノ命令ヲクシテ之ヲ行フコ

(100)

トヲ得ズ總督ハ軍事的動作ノ性質及目的ヲ決定ス已ニ着手シタル動作ノ變更ニ付テモ亦同シ軍事的守備地ノ設置及廢止ハ總督ガ守備隊司令官ノ意見ヲ聽キタル後之ヲ令ス最後ニ守備隊司令官ト其上級官廳タル陸軍省トノ照會往復ハ總督及殖民大臣ヲ經由スベキ旨ヲ定メタリ千九百年ノ法律ニ由リテ設ケラレタル殖民軍隊ノ編制ハ佛國ニ於テ最初ヨリ批難多カリキ批難ハ佛國ニ駐在スル殖民軍隊ノ編制ト殖民軍隊ヲ陸軍省ニ隸屬セシメタルガ爲ニ各殖民地ニ於ケル政府及守備隊司令官ノ遭遇スル困難トニ關シテナリ(千九百三年十二月十日政治及議會論集ニ登載セルアルツル「チロル氏」ノ殖民軍隊ハ殖民省ニナル論文ヲ參觀セヨ)此第一點ニ付テ世人ノ主張シタル所ハ佛國ニ駐在スル殖民軍隊ハ殖民軍隊ナル名稱ヲ有スルニ止マリテ實際ハ毫モ他ノ佛

(101)



國軍隊ノ軍團ト異ル所ナク且實際上法律上殖民地ニ使用セラ  
ルルコト能ハズト云フニ在リ實際ノ不可能トハ殖民地ノ兵役  
ハ本國ノ兵役ト總テノ點ニ於テ頗異ナリ本國ノ軍隊ハ直チニ  
之ヲ殖民地ニ使用スルコト能ハサル點ニ在リ佛國ニ駐在スル  
殖民軍團ヲ殖民地ニ使用スル法律上ノ不可能ハ千九百年ノ根  
本法ニ於テ殖民軍團ノ一部徵兵法トシテ決シテ殖民地ニ就役  
スルコトヲ強制セラレザル本國軍隊ノ所屬員ヲ合併スルコト  
ヲ得トノ如キ奇怪ナル規定ヲ設ケタルニ由レリ  
殖民軍隊ヲ陸軍省ニ隸屬セシムル制度ガ殖民地ニ於ケル軍事  
的權力ト民政トノ關係ニ及ボシタル結果ニ付テハ千九百年ノ  
法律自權力分立ノ主義ヲ一貫スルコト能ハザルコトヲ認メタ  
リ法律ハ總督ノ其ノ管内ノ防禦ニ關スル責任ヲ認メ同時ニ守  
備隊司令官ヲ總督ニ隸屬セシメタレハナリ此矛盾ハ殖民地軍

隊ヲ陸軍省ニ隸屬セシメントスル根本ノ主義ニ反スルモノナ  
ルモ制度其物ノ結果タル權力ノ分裂ヲ停格スルニ足ラザリシ  
ナリ守備隊司令官ハ爾今一方ニ於テハ陸軍大臣他方ニ於テハ  
殖民省ノ系統タル總督ニ隸屬スルコト、ナレリ是レ千九百四  
年佛國元老院豫算委員會ノ殖民地豫算ニ關スル報告ニ於テ頗  
ル奇怪ナル混同ト評セラレタル事態ナリ斯ノ如キ分裂ニヨリ  
テ生スル不都合就中殖民地軍隊ノ活動力ノ阻害ハ遂ニ殖民地  
軍隊ヲ殖民省ニ隸屬セシムル必要ヲ唱フルモノヲシテ多數ヲ  
占ムルニ至ラシメタリ前年元老院及下院ノ報告者ハ斷然此ノ  
改革ヲ行フベキコトヲ主張シタリ如斯現行制度ノ不都合ナル  
ガ爲ニ既ニ千九百三年五月二十六日ノ布告ヲ以テ此ノ改革ニ  
近キ改正ヲ行ヒタリ該布告ハ總テ殖民地ノ兵力ヲ五大部隊ニ  
編成シ各一部隊毎ニ統一シタル高等司令部ヲ設ケタリシモノ



ナルガ同時ニ殖民大臣ハ殖民地守備隊ノ純然タル軍事上ノ事務ニ關シ少ナカラザル權力ノ擴張ヲ得ルコト、ナレリ千九百年ノ法律ニ據レハ殖民地軍隊ノ編制及組織ハ殖民大臣ト協商ヲ經タル陸軍大臣ノ上申ニ基ツキ大統領ノ布告ヲ以テシタリシカ千九百三年五月二十六日ノ布告ニ據レハ五大部隊内ニ於ケル殖民地兵力ノ編制組織及分配ハ陸軍大臣ノ意見ヲ聽キ殖民大臣之ヲ決定スルコト、ナレリ即此重要ナル點ニ於テ直接ノ指令權ハ殖民大臣ニ移リタリ其外殖民大臣ハ五大部隊ノ各司令官ノ任命ニ付陸軍大臣ト同等ノ權力ヲ有スルコト、ナレリ即該司令官ハ陸軍大臣及殖民大臣ノ推薦ニ基ツキ大統領之ヲ任命スルニ至リタリ

由是觀之佛國ニ於テ殖民地軍隊ヲ陸軍大臣ニ隸屬セシメタル經驗ハ亦佛國ヲシテ終ニ獨逸ト同一ノ制度ヲ施行スルニ至ラ

シメントス即殖民地軍隊ハ殖民地全體ノ行政ヲ統轄スル中央官廳ニ隸屬セシムルコト是ナリ英國ノ西亞弗利加、中央亞弗利加、東亞弗利加ノ殖民地ニ於ケル軍事組織ニ關スル模範、佛國ノ殖民地軍隊組織ノ失敗及我獨逸自國ノ舊制度ノ經驗ハ共ニ希有非常ナル南西亞弗利加反亂事件ノ爲ニ我殖民地軍隊ノ編制上俄ニ根本的改革ヲ行ヒシガ如キ事例ヲ戒シムルモノナリ

殖民地兵力ノ編制問題ニ次キテ攻究ヲ要スルモノハ守備隊ノ一部ヲ殖民地ノ地方行政事務ニ使用スル可否ノ問題ナリ

前述シタルガ如ク新舊守備隊條例ハ明ラカニ守備隊所屬員ヲ民政ノ目的ニ使用スル途ヲ開キ且此場合ニ付該守備隊所屬員ノ服從關係ハ軍事組織ノ團結性ニ鑑ミテ次ノ如ク之ヲ定メタリ即守備隊員ハ軍事上ノ關係ニ於テハ其ノ軍事上ノ上官ニ服從シ其ノ他ハ當該民政官廳ノ指揮ニ從フモノトセリ此ノ如



キ所屬分裂ハ必然不都合ヲ生ズルヲ以テ守備隊所屬員ヲ民政ニ使用スルヲ避クルハ行政ノ利益ニシテ又軍事的勤務ノ利益ナリ

斯ノ如キ勤務上ノ都合ノ外保護領地ニ於ケル白人種及經濟的利益ノ増加ト共ニ殖民地ニ利害關係ヲ有スル公衆ハ益々軍政民政ノ分立又ハ軍政ニ代フルニ民政ヲ以テスルコトヲ主張スルニ至リタル事情アリ此ノ如キ主張ハ恐ラクハ事態ノ眞想ヲ誤解シタルニ基ツクモノナルベシ蓋獨乙ノ保護領地ニ於テハ軍政民政ノ競争若ハ錯綜ナルモノアラザレバナリ民政軍政ハ保護領地ニ於テ明確ニ分立シ保護領地ニ於テ地域的行政存スル限リハ行政ハ即チ民政ナレバナリ此ノ如キ主張ノ由リテ起ル所以ハ畢竟民政ノ或機能ガ守備隊所屬員ニ由リテ永久若ハ一時行ハル、コトアルガ爲ナリ即純然タル民政ヲ要ムル主張ハ

行政事務ハ下級審ニ於テモ上級審ニ於テモ總督以下軍人ヲ排除シテ民政官ノ掌裡ニ屬セシムベシト云フニ在リ保護領地ノ人民及殖民地利害關係人ハ純然タル軍事的教育ヲ受ケタル武官ヨリモ文官ノ方其ノ準備的教育上殖民地ノ經濟上ノ需用ニ付一層ノ理解力ヲ有スルコトヲ信用スレハナリ

此ノ如キ純然タル民政ヲ要求スル主張ハ極端ニ失スルモノト云フヘシ蓋シ軍事上ノ職務又ハ官吏ノ職務ニ付豫備教育ヲ受ケタルノミニテハ殖民地行政官ノ職務ヲ全ウスルニ足ルベキ人物ヲ養成スルニ足ラズ殊ニ其ノ位置ガ愈々困難ニシテ愈々責任ノ重大ナルニ隨ヒ愈々個人的性格ニ重キヲ置カザルベカラザレバナリ我殖民地ニ於テハ軍人出身ノ官吏ニシテ往々民政ニ最モ適任ナリシ實例ニ乏シカラズ且ヤ新領土ヲ舉ケテ始メテ之ヲ行政ノ下ニ置キ乃至經濟上ノ利益未ダ充分ニ發達セザル



地方ニ於テハ民政ノ權力ト軍權ト夫一人ニ收攬スルノ却ツテ  
 機宜ニ適シタルモノアリ軍事上ノ懸念アル場合ニ於テ行政權  
 ナ士官ニ委任スルハ當然ナリト云フベシ軍人ノ一部ヲ行政ノ  
 目的ニ使用スルコトヲ得ル制度ハ殖民地行政組織及軍隊編制  
 ノ合併主義ノ長所ト認ムヘキ點ニシテ佛國ノ如キハ蚤ニ此ノ  
 長所ヲ認メタリ而シテ其ノ利益タル獨リ行政上ニ止マラズ併  
 セテ殖民地ノ財政上ニ在リ若夫各他ニ守備隊長ノ外更ニ直チ  
 ニ民政官ヲ設置スルモノトセハ殖民地行政ノ經費ハ著シキ増  
 加ヲ免レザルベシ然リト雖軍政主義モ亦自其ノ時代アリト云  
 ハザルベカラズ即殖民地進化ノ段階ニ於テ大ナル經濟上ノ利  
 益起リ本然ノ行政事務増加スルニ至ルトキハ文官武官ノ分業  
 及分權ヲ行フノ時期ニ達シタルモノナリ軍政ニシテ此時期ヲ  
 超過セバ軍務モ民政モ爲ニ俱ニ損害ヲ蒙ラザルヲ得ズ行政

費ヲ節約セントシテ却ツテ不經濟ナル結果ヲ呈スベシ蓋軍事  
 上ノ職務ニ由リテ行政長官タル者ガ屢々其ノ任地ヲ離ル、コ  
 トアルガ爲ニ民政専門ノ官吏ニ由ルヨリモ自然不經濟ヲ免レ  
 ザルニ至ルベケレハナリ  
 是ヲ以テ軍政ト民政トヲ分離スヘキ條件恰モ存在スル場合ニ  
 於テ文官ヲ任用シ民政軍政ノ分離ヲ行フハ總督ノ重責ナリト  
 云ハザルベカラズ此主旨ニ由ル民政軍政分離ノ希望ハ行政及  
 財政ノ利益ノ爲ニ始メテ之ヲ賛成スルコトヲ得ヘシ  
 要ハ軍人出身者ガ民政ノ凡テノ位置ヨリ排斥セラレ、如キコ  
 トアルベカラズシテ唯依然軍職ニ在ル守備隊員ニ民政ノ官職  
 ナ授ケザルニ在ルノミ果シテ然ラハ軍隊及其ノ所屬員ハ純然  
 タル軍務ニ止マリ民政ハ必要ニ應シ軍隊出身ノ適任者ヲ採用  
 スルコトヲ得ベキナリ此ノ如キ目的ハ守備隊ノ一部分ヲ民政



専門ノ警察隊ニ變更シ即九十年代ノ始當時ノ東部亞弗利加總督ガ着手シタル方法ニ由リテ之ヲ達スルコトヲ得ヘシ此ノ改革ニ由リ本來ノ守備隊ノ戰鬥力及其ノ純然タル軍事上ノ價値ハ著シク發達スルヤ毫モ疑ヲ容レズ

守備隊ヲ純然タル軍事上ノ任務ニ止ムル制度ハ又母國ニ於ケル殖民地中央行政ノ組織上ニ好結果ヲ及ボスヘシ上述シタル如ク元來外務省殖民局ハ守備隊ノ凡テノ行政事務ヲ管理シタルモノナリシガ此ノ主義ハ爾來變更セラレタリ守備隊ノ行政事務ハ漸次膨脹シ殖民局ニ於テ附隨ノ事務トシテ之ヲ處理スル能ハザルニ至リシヲ以テ千八百九十八年十一月十日ノ帝國宰相ノ命令ヲ以テ守備隊ノ被服武裝ニ關スル事務ハ守備隊高等司令部ニ委任セシメタリ南西亞弗利加ノ反亂ハ更ニ此ノ種ノ軍事行政事務ヲ増加シタルガ爲ニ此ノ點ニ付テ更ニ一步ヲ

進ムルノ必要ヲ生ジ千九百四年六月四日ノ帝國宰相ノ命令ニ由リ爾今當分南西亞弗利加守備隊ノ糧食及馬匹ニ關スル事務ハ之ヲ高等司令部ニ委任スルニ至リタリ

此ノ如ク守備隊ノ行政事務ヲ分離シ或行政事務ヲ元純然タル司令部トシテ設置セラレタル官廳ニ委任スルハ一時ノ窮策ト認メザルコトヲ得ズ本問ノ至當ナル解決法ハ軍事行政事務ト純然タル民政事務トヲ明確ニ區別シ軍事行政事務ニ付テハ特別ノ經理部ヲ設クルニ在リ此ノ經理部ハ殖民地ノ中央行政ヲ管轄スル中央官廳ノ一部分タルベキモノナリ但此ノ如キ改正ハ先ツ保護領地ノ豫算中ヨリ民政費及軍政費ノ項目ニ次ゲル「數多ノ行政部局ニ共通ナル基金」ナル項目ヲ削除シ守備隊ノ如何ナル部合モ其軍務ノ外民政ノ目的ニ使用セラレ、コトナキニ至リテ始メテ完全ニ實行スルコトヲ得ベキナリ



要之我殖民地全體ノ組織ノ將來ノ改革ハ殖民地ニ於ケル軍隊  
ヲ地方的事情ト其ノ進歩發達トニ應シテ純然タル軍事上ノ動  
作ニ制限シ且殖民地民政ト軍隊編制トノ統一ヲ維持シテ殖民  
行政ノ中央官廳内ニ軍事行政事務ヲ管掌スル適當ノ組織ヲ設  
クルニ在リ

前述シタル改革案ハ假令行政的技術ノ見地ヨリ重要ナリト認  
メラル、トモ此ノ如キ官制改革及其我殖民地ノ將來ノ發達ニ  
對スル効用ハ之ヲ過重視スベカラズ改革ノ効用ハ從來業已ニ  
感知シ將來モ又進歩ノ障礙タルベキ故障及衝突ヲ避クルニ止  
マレリ然レドモ本來殖民地ヲ進歩セシムル原動力ハ形式的官  
制ニアラズシテ活力アル人間即我殖民地政策ノ方向ヲ指示ス  
ル人物我殖民地官制ヲ代表スル官吏及國民ノ如何ニ在リテ國  
民ノ援助協力ナクシテハ如何ナル殖民政策モ無効ナルベキコ

トハ既ニ比斯麻克公ノ認メタル所ナリ吾人ノ殖民的任務ノ重  
大ナルコトヲ充分ニ了解シ之ヲ達スルニ斷然タル決心ヲナス  
ニ於テ始メテ積極的劃策及事業ヲナスコトヲ得ベシ之ヲクン  
バ如何ナル良制ト雖竟ニ空物タルニ終ルヘシ我殖民行政ノ改  
革ハ改革其物ノミニテハ何等ノ意味ナキモノニシテ我殖民地  
ノ發達ヲ劃策スル政策ニ對シ平凡ナル道具ニ代フルニ一層良  
好ナル道具ヲ以テスルガ如ク一大事業ノ一部トシテ始メテ其  
ノ効用ヲ致スベキナリ



殖民行政組織改革論終

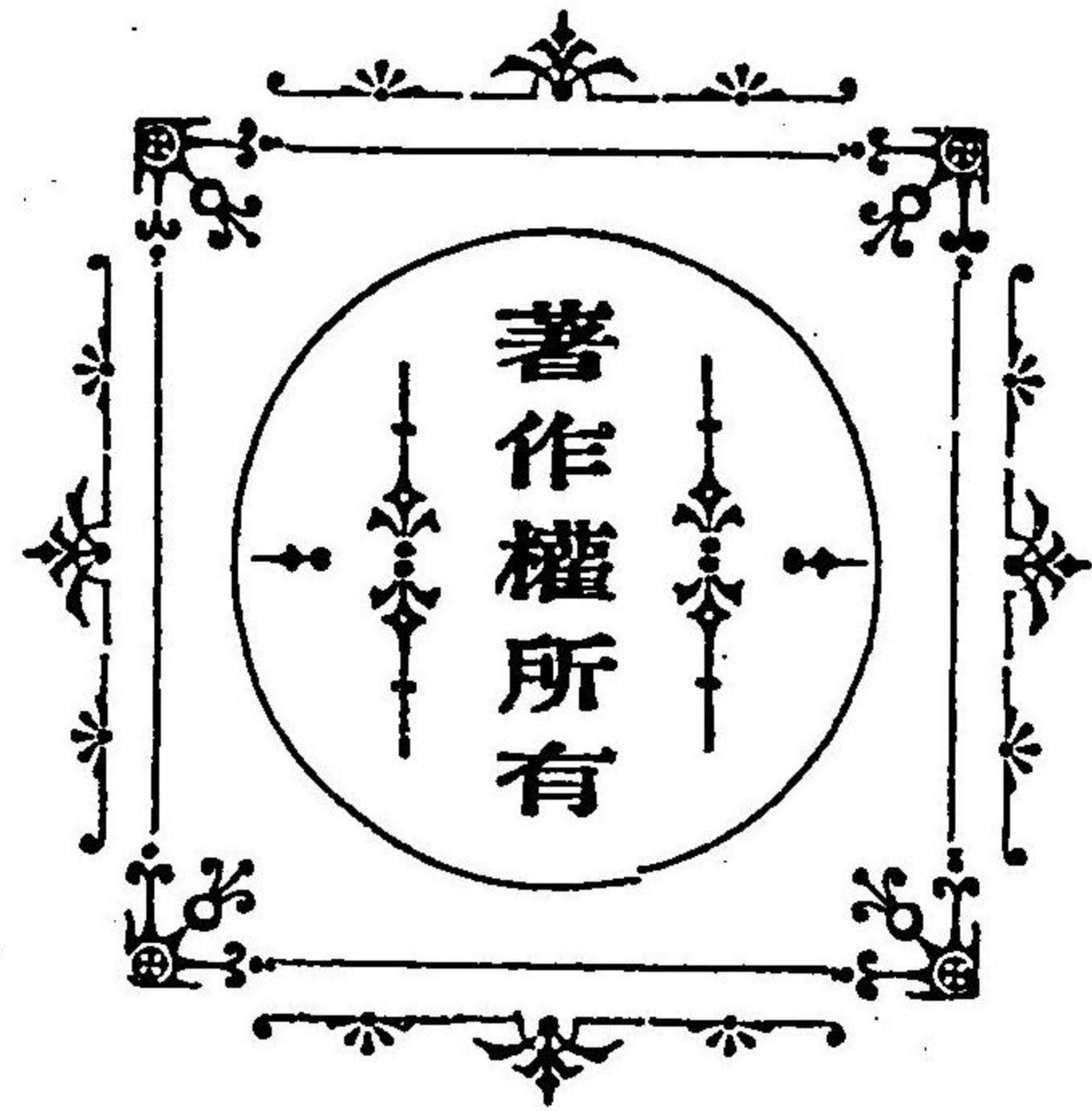
明治三十八年七月五日印刷  
明治三十八年七月八日發行

譯者 森 孝 三

發行者 大橋新太郎  
東京市日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 石川金太郎  
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所 株式會社 秀英舍  
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地



發兌元

博文館

東京市日本橋區本町三丁目

— 定價金貳拾錢 —

— 殖民政組織改革論 —



重田勘次郎君著

世界各國家間の交通は日に月に頻繁を加へ之に伴ふ經濟關係社交關係は自然に相互の人情風俗を知悉するの要あり然るに現在に於る此等の研究は未だ一般の必要とならざる爲め兎角偏見の嫌あるは夙に識者の慨嘆する所なり著者こゝに見るあり廣く群籍を涉獵し旅行家の實話に徴し世界各國の地勢氣候人種言語は素より社會の狀態教化の程度一般の慣習等精を盡し細に亘りて詳述したれば其的確にして研究家に大なる貢獻を爲せるは云ふ迄もなく其他實業家と雖も一讀して其裨益鮮少なからざるなり……

### 世界風俗志

全一冊 洋裝並綴中判四百六十三頁 正價金五拾錢 郵税金八錢

### 世界殖民史 全一冊

法學士 山内正瞭君著 博文館發兌

本書は遠く上古に遡りて、フイニシヤ、カルセーシ等の諸國より降ては、葡萄牙、西班牙、和蘭、佛蘭西、英吉利等の諸國に至る迄、各國の殖民に關する歴史を説き、盛衰興亡の跡を引ひ、并ひに經濟史及政治史の兩側面より觀察して政策の得失を評論し、以て一巻の史乘たると共に又將來に於ける殖民事業發展の指鍼たるを期すもの我向上國民は今後の國策上是非とも熟讀研鑽すべき要書なり……

〔概目〕 第一編總論△第一章緒言△第二章殖民の意義△第三章殖民の種類△第四章殖民の利害△第六章人種の盛衰△第七章マールカナルシステム△第八章勞動問題△第二章古代史△第一章埃及△第二章東方諸國フイニシヤ△第四章カルセーシ△第五章希臘△第六章羅馬△第三章中世史△第一章アマルフイとビザンチン第二章フロンス△第三章セノア△第四章ベニス△第四編近世史△第一章緒論△第二章葡萄牙△第三章西班牙△第四章和蘭△第五章佛蘭西△第六章英吉利△第五編結論

文學士 坂本健一君編

民人文野の別は、風俗の純雜に現し、社會隆汚の運は、世風の張弛に觀る可し、波奢泰の世相、緊肅の時態と表裏し、文華質美交替し來れる、新風舊俗の推移は、豈社會の眞相にして、國家盛衰の運の繋るとこそ、風俗の沿革を叙して、敢て其詳を盡すとはいはざるも、茫々上下三千年間、大局の趨勢を示すに意を致し、兼て略部分の細を斥く、古人曰く民俗土宜眞學問と、乞ふ擾々たる權勢爭奪史外、別に國民全般眞意俗の開展を記する史界の半面あるを見よ……

### 日本風俗史

正價 (特製) 正價金五拾五錢 郵税金拾錢 (並製) 正價金四拾錢 郵税金八錢

### 世界史

上卷 下卷

文學士 坂本健一君著

博文館發兌

上下幾千歳の興亡は、常に世界的統一的趨勢を示し、最近に至り凡百の事相殆んど世界的となる、嘗て西人獨りアールヤ文明を重しとなし、偏に歐米を説きしは狭し、亞細亞、文明あり、數學あり、東亞の老帝國は近く世界的大競争場たらん、世界中東洋豈輕しとせんや、是を以て、古今東西を通叙して、聊か國民に勵めんとするは既出邦文世界史中に於て、稍詳密を得たる本書編纂の目的なり……

(下卷)

上卷 下卷 文學士 坂本健一君著 博文館發兌





# 法學士 須崎芳三郎君著

## 現代露西亞

冊一全

(特製)正價金五拾五錢 郵稅拾錢  
(並製)正價金四拾錢 郵稅八錢

露國の内情には驚絶に價するもの多し之を記述するは  
其事自身に興味多きのみならず我立國に關係する對露  
策に資するものなり本書録する所は表面より見たる露  
國を始めとして、人種、宗教、社會、政治、中央政府  
革命の氣運、革命黨、國際關係、外交術、財政、陸軍  
海軍等の十數項に亘り記述痛快、讀む者をして彷彿の  
間に露國を眼前に想起せしむ、時局に注意する我國民  
は必らず之が精讀を要す

# 法學士 須崎芳三郎君著

## 露國侵略史

冊一全

特製正價金五拾五錢 郵稅十錢  
並製正價金四拾錢 郵稅八錢

露國の過去三百年は侵略の歴史なり一々其跡を  
尋ねて滿洲問題を馴致したる所以を示すは本書  
の目的なり其間、露人殘虐の實例あり外交不信  
の歴史あり、外交官吏の悪辣手段、邊疆武人  
の策謀、間諜の毒計等露國の慣用手段は、逐層見  
讀者をして不知不識の間に自ら露國が清國兩國  
に用ゐたる奸謀の外交を想起せしむ前に露國小  
史ありて其初編の始めより現帝ニコラス二世に  
至る迄の事歴を載せたるを以て讀者は刻下の必  
讀書を得ると共に此尨大帝國の歴史を知るを得  
べきなり

帝國大學文科大學長文學博士坪井九馬三先生校閱  
在大學院文學士堀竹雄君 文學士竹村尙次君共編

(躬行會 藏版)

## 露國の實相

全一冊洋裝上製  
正價金七拾錢  
郵稅金拾錢

(挿入地圖)露國全圖、同歷史地圖、同產業地圖(著色)

本書は我が名門華胄に依りて組織せられし躬行會に於て今回特に編纂せられたるものなり、  
戰爭に要する第一戦は能く己が力量を知ると同時に併せて敵の實狀真相を審にし一に應急手  
段を諷らざるにあり、世上今や暗黒面の露國を示すもの多しと雖も、未だ露國の進歩發達せ  
る真相を語るもの稀なり、蓋し露國が今日に至るまで能く霸を歐土列強に成せし所以は必ら  
ずや豪壯雄大の素ある事恰かも秦王が六國に對せし概無くんばあらず、躬行會諸氏に見る  
所あり、堀文學士に托して攻究數月以て本書を大成せしめ、坪井博士に囑して更に嚴密なる  
校訂を加へしめらるる其價值あるを以て知るべきなり、苟も濟世愛國の士は必らず一本を座右  
に備へ以て大資料とする所あれ。

文學士 白河次郎君 共著  
國府種徳君

## 支那文明史

冊一全

正價 特製金五拾五錢 郵稅十錢  
並製金四拾錢 郵稅八錢

支那文明を調査するに支那の學者が古來指論の  
書史を備へて往々其問題に解釋を加ふる如き時  
なきにあらざるも皆一定の系統組織を立てて  
釋を試むるものに非ざるが故に却て歐羅巴の文  
明を認明するより更に困難を感じざる所學者の  
苦心を知るべきなり而して本書は古今東西の學者  
が未だ道破せざる所未だ思慮の及ばざる所を指  
して天下の支那學者を驚倒せしむるに足る蓋し  
支那調査に於て裨益する所少なからざるべし

文學博士 故高山林次郎君著

## 世界文明史

全一冊洋裝  
特製クローズ製  
大判 三七六頁

正價 特製金五拾五錢 郵稅拾錢  
並製金四拾錢 郵稅八錢

本書は人類生活の統一的經史なり是によりて始めて歴史的發展の精心  
を探り、史的發展の精神を會得するを得べきなり本書筆を有史以前の  
民族に起し、佛蘭西大革命に至るまで、主として哲學、宗教、文藝政  
治の上より東西歴史の隱微を描破せむと欲す、志士須らく本書を精讀  
して、世界人文の潮勢を達觀し、以て方今の實際に推倒すべきなり

文學士 大町桂月君著

## 日本文明史

冊一全

(特製)正價金五拾五錢 郵稅拾錢  
(並製)正價金四拾錢 郵稅八錢

史眼炬の如く才筆縱橫吾國三千年史の人文發達の跡を  
尋ね來りて之を掌上に指すが如し文學や美術や宗教や  
道德や工藝や風俗や物質的なることに拘らず我國の文  
明の由來及び發達はすべて紙表に躍動す普通の政治史  
以外稀に見るの好著述なり



伯爵大隈重信君口述

武井宗十郎君筆記

# 大隈伯爵時局談

全一冊洋裝  
紙數金三拾錢  
正價金八錢  
郵稅金八錢

伯爵序文

- (一)日本帝國の地位
- (二)過去百年間の露禍
- (三)日露外交の斷絶
- (四)無意義の黃人禍
- (五)日露戦争と列國の擔背
- (六)戦時に於ける日本の外交
- (七)眞の舉國一致
- (八)戦時の財政計畫
- (九)對韓經營策
- (一〇)對清政策
- (一一)日露戦争の結局

大政黨の首領大隈伯刻下の時局に對して豈一  
大談見なくして可ならんや、夫れ伯爵一たび  
演説すれば倫敦市場忽ち公債の騰落を見るに  
あらずや、其一言一行の社會に大勢力あるこ  
と以て見るべきなり、今や伯爵時局に對して  
滿腔の熱血を吐き帝國戦後の大經營と對露對  
清對韓の政策に於て縱論横説餘す所なく以て  
天下の輿論を斷す言々割切句々烈實、讀者を  
して思はず拍案快躍せしむ者よ刻下國民の必  
讀すべきもの本書にあらずして抑も何ぞ

法學士 小原新三君著

# 行政法汎論

冊一全

上製金五十五錢 郵稅十錢  
並製金四十錢 郵稅八錢

行政法は法律中其範圍浩汎實難形難活動を極む  
る者なり著者は現に立法及行政の二要素に在り  
且つ行政法に關し教鞭を取らるゝこと數年見地  
卓抜文章流麗其行政法を斷する快刀亂麻を斷つ  
か如し

- 第一論
- 第一章 行政の觀念
- 第二章 行政の分類
- 第三章 行政の實質
- 第四章 行政の法則
- 第五章 行政の公權
- 第六章 行政の義務
- 第七章 行政の責任
- 第八章 行政の救濟
- 第九章 行政の附屬
- 第十章 行政の附屬
- 第十一章 行政の附屬
- 第十二章 行政の附屬
- 第十三章 行政の附屬
- 第十四章 行政の附屬
- 第十五章 行政の附屬
- 第十六章 行政の附屬
- 第十七章 行政の附屬
- 第十八章 行政の附屬
- 第十九章 行政の附屬
- 第二十章 行政の附屬

松方伯爵題辭 井上伯爵序文

十五銀行頭取園田孝吉君著

(博文館發兌)

# 赤心一片

全壹冊  
洋裝菊判  
紙數約三百頁  
正價三拾五錢  
郵稅六錢

日露戦争は帝國空前の國難にして國家存亡の繫る所なり、此秋に方り國民たるもの實賤貧富を論ぜず堅忍奮勵大に軍資の供給を圖り出征將士の忠勇義烈と相俟て以て國家最終の目的に達するを務めざるべからず此書は園田氏が軍資の供給其他政治經濟社交風俗等に關する赤誠餘情にして松方伯は本書に題するに言々愛國の四字を以てするもの偶然にあらざるなり讀者乞ふ一本を座右に備へ以て軍國に處する國民たるの精神を養ふべきなり

## 目次

- 緒言 ● 軍資應募と國民の覺悟 ● 戰時經濟 ● 戰時經濟と時弊矯正 ● 軍資供給と經濟の維持 ● 戰時の經濟 ● 戰時國民活動の準備 ● 戰局の遷延と財界 ● 戰時國と弊害矯正 ● 戰時の金融 ● 戰時の二大急務 ● 帝國の危機 ● 時局と經濟界 ● 日英米三國懇親會 ● 日進春日歡迎會 ● 黃禍說の奇 ● 日英商人の長短 ● 日米同盟の約束 ● 日本の進歩 ● 條約改正諷刺 ● 國狀吹聴の必要 ● 俱樂部の効力と社交上の注意 ● 歸朝後の所感 ● 東西銀行事情の相異 ● 銀行の業務 ● 公債と國家の信用 ● 商工業者の徳義 ● 青年實業家に望む ● 交際の具 ● 英語演説片々 ● 感謝の辭 ● 出征軍人を送るの感 ● 今昔の感

法學士 小原新三君著

# 行政法各論

冊一全

上製五十五錢郵稅十錢並製四十錢郵稅八錢  
本書は著者か前書に次て起稿したるものにして  
官治行政に於ては軍事、外交、司法、人事、警察、衛  
生、教育、宗教、農工、經濟其他の各般に就及し自  
治行政に就ては北海道、府縣郡市町村其他地方の  
體、公共機關等縱横に論斷解説を加へ以て法の  
精神を闡明せり

- 第一卷 官治行政
  - 第一編 軍務行政
  - 第二編 軍務行政
  - 第三編 軍務行政
  - 第四編 軍務行政
  - 第五編 軍務行政
  - 第六編 軍務行政
  - 第七編 軍務行政
  - 第八編 軍務行政
  - 第九編 軍務行政
  - 第十編 軍務行政
- 第二卷 自治行政
  - 第一編 地方團體
  - 第二編 地方團體
  - 第三編 地方團體
  - 第四編 地方團體
  - 第五編 地方團體
  - 第六編 地方團體
  - 第七編 地方團體
  - 第八編 地方團體
  - 第九編 地方團體
  - 第十編 地方團體



11M11

ホノル、新聞主筆 木村芳五郎君 共著  
傳 道 師 井上胤文君

博文館發兌

### 最新 布哇渡航案内

大判洋装並綴  
正價金參拾八錢  
郵税金八錢

#### ▲在布哇帝國總領事齋藤幹君序文

◎布哇航路圖布哇八島全圖及寫真版數葉挿入

海外移民の必要なるは尙衣食の人生に欠くべからざるが如し我諸移民中過去及現在に於て最も成効し又將來に於て最も安全にして有望なる布哇の右に出づるものあらず現時本邦人の同島に在留するもの六萬五千數に於て己に全人口の三分の一以上を占め同島唯一の財源たる糖園は邦人の手によりて耕やされ其製造所亦本邦人によりて運轉せらるゝなり故に布哇の榮枯盛衰は一に本邦移民の掌中に存すると共に我國亦布哇に待つ所尠少ならざるを知るべし著者多年布哇にあり親しく兩國の關係真相を知熟し移民事業に於て一面母國に於ける同胞に向つて我國の一大富源なる布哇を紹介し一面渡航者の爲めに親切に指導の任に當らん爲め遂に本書を世に公にし正確の上にも正確を期し文字の如きは敢て修飾を加へず其記事皆實地踏査を基礎とし平易通俗を主とせり故に坊間ありふれたる皮想を描きたる杜撰の粗笨のものと同日の論にあらざる事知るべきなり

故慶應義塾々長鎌田榮吉君著

### 歐米漫遊雜記

冊壹全

▲正價金四拾五錢 郵稅八錢  
著者往年歐米に遊ぶこと年餘其歷程の廣汎なる其觀察の細微なる他に其比を見ず隨處隨處したるもの今之を一巻に收輯す、歐米獨佛羅伊其他各邦の文物典例國勢は勿論博物館美術館劇場著明なる建物舊蹟名蹟等仔細に叙述して餘蘊なし加ふるに著者が齎らせる珍奇なる寫真十數葉を挿入す、最近歐米の旅行案内として必讀の新書なり。

松井柏軒君著

### 米國漫遊雜記

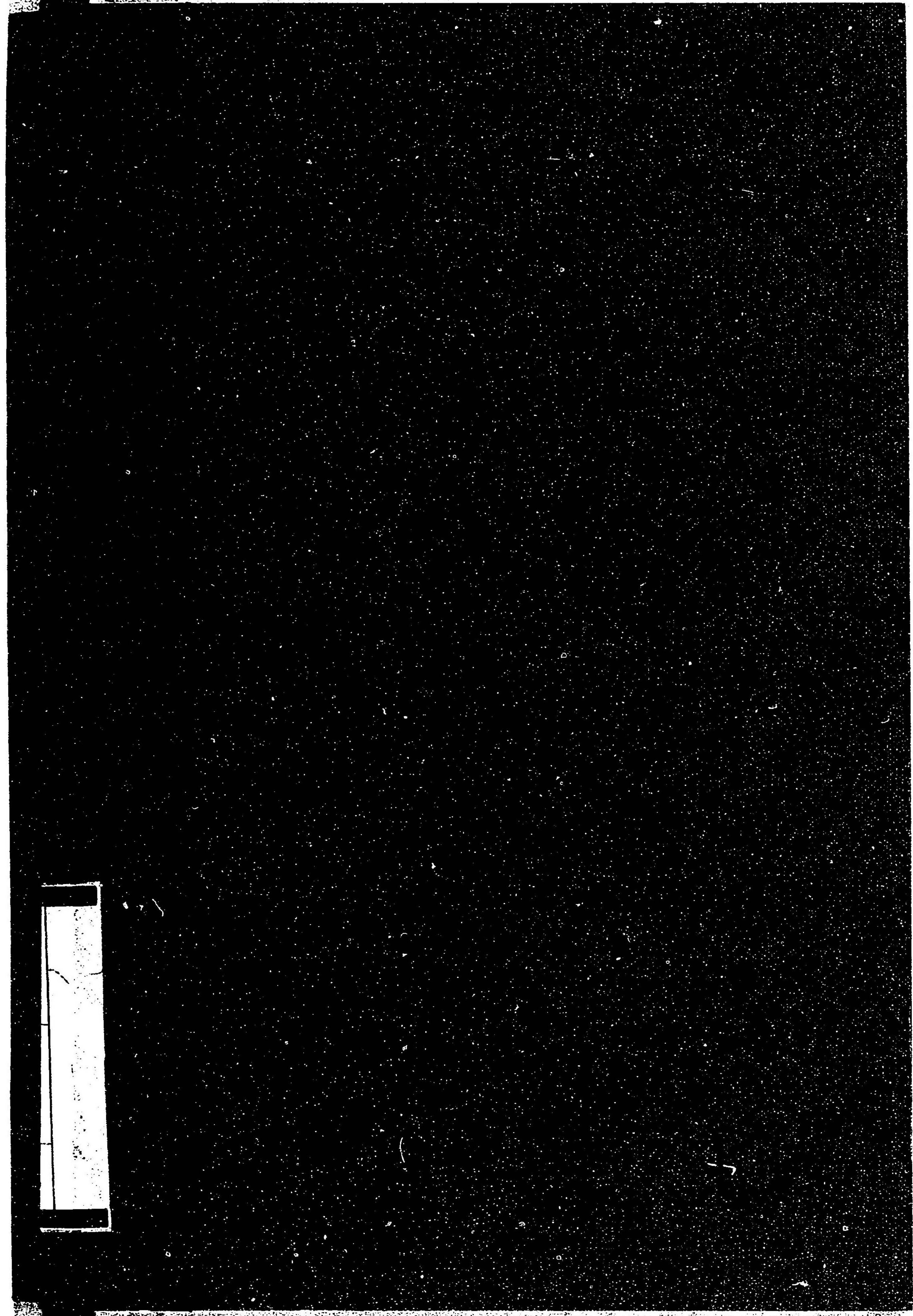
冊壹全 洋裝

(寫真銅版十六頁入)

▲正價金三拾八錢 郵稅六錢

松井柏軒君著に米國に漫遊し彼地に於ける觀風察俗其他政治文學實業等種々の方面に涉りて詳かに其内情實勢を洞察し面白く書著されたり。世人一たび本書を縱覽せば身は富強米國に在りて親して其風俗を睹るの思あらしむるなり。口繪の寫真版は又氏か携帶せし新景に感れり請ふ隨處御愛讀あらんことを。







317.8

CH47s

M

028893-000-1

317.8-CH47sM

殖民行政組織改革論

ヘルフェリッヒ/著

M38

BAC-0081

